

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 1 週( 1 月 4 日～ 1 月 10 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要 ◆ 小児科外来情報

## インフルエンザの流行が始まっています

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.68	(3.50)	↘	↘	↘	→
2	RS ウイルス感染症	2.53	(1.56)	↘	↘	↘	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.68	(0.85)	→	→	↗	↓
4	インフルエンザ	1.17	(0.17)	↑↑	↑	↑↑	↑↑
5	伝染性紅斑	1.12	(0.18)	↑	↑	→	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点あたりの報告数が、流行開始の目安となる「1」を超えています。年齢に偏りはなく、すべての年齢層から報告が出ています。近隣2府4県についても同様な傾向です。また、今週は中和保健所管内で集団発生(保育園)がありました。今後さらに広がりを見せるおそれがあるので、手洗い・うがいを励行し予防に努めましょう。また、人が多く集まる場では特に咳エチケットを心がけてください。

感染性胃腸炎は、全体的にやや減少しています。患者は0歳児から5歳児までが全体の65%を占めていますので保育所や幼稚園など、子ども同士の接触が増える場所では、タオル、食器、おもちゃの共有を避けるなどして感染を広げないよう注意してください。また、20歳以上からの報告が30例ありました。大人も外出後など手洗いをこまめにし、感染者の嘔吐物等を処理する際に二次感染しないようにしてください。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

正月休みで感染性胃腸炎は減少した。保育園児でRSウイルス感染症が、流行性耳下腺炎が園の年長児で流行している。水痘は小学生以上で多くみられる。インフルエンザはまだほとんどみられないが、発熱後に咳がひどく長引くマイコプラズマ肺炎の確診例と疑い例が1か月以上前より小学生以上成人まで大流行している。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は暖冬のためか多くない。  
 インフルエンザはA型が成人で僅かに散発してみられる程度。  
 マイコプラズマ、RS気管支炎は新年になって減少した。  
 感染性胃腸炎が流行中。嘔吐が主でノロ様。ロタはない。  
 伝染性紅斑の流行が続いている。その他水痘は少し。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

ムンプスの流行は鎮静化してきた。RSウイルスは減少傾向にあるが、ノロウイルスの流行は続いている。1月になってA型のインフルエンザが増加してきた。症状は例年と変わっていない。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 2 週( 1 月 11 日～ 1 月 17 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要 ◆ 小児科外来情報  
 ◆ センターだより

## インフルエンザの流行が始まっています

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.47	(5.68)	↘	↘	↘	→
2	インフルエンザ	1.96	(1.17)	↑↑	↑↑	↑↑	↑
3	RS ウイルス感染症	1.41	(2.53)	↓	↓	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.26	(1.68)	↘	↘	→	↗
5	伝染性紅斑	1.06	(1.12)	↗	↗	→	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が今週も増えていきます。例年この時期から急増していくため、手洗い、うがいを今まで以上にしっかり行って下さい。先週お伝えした中和保健所管内での集団発生(保育園)は、インフルエンザB型によるものでした。小児科外来情報にもあるように北部、中部では主流はA型、南部はB型が流行しているようです。これから流行がさらに広がっていくと一度感染しても型の違いで再び感染する可能性があるため注意してください。

伝染性紅斑が先月から報告が多い状況にあります。患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染や接触感染が感染経路となります。子どもの体調の変化に注意し、手洗い、うがいを励行しましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数は、あまり多くない。インフルエンザがそろそろ増加しそうです。子供にも感染者が出てきています。迅速検査は全てA型です。ノロウイルスなどの感染性胃腸炎も増加してきました。症状は軽症の方が大半で、1日程度の嘔吐と数日の下痢が続きます。保育園の乳幼児はRSウイルス感染症の流行が続いています。保育園の幼児では流行性耳下腺炎が流行しています。小学校児では、伝染性紅斑の流行が続いています。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は急激な寒さとともに増加傾向。  
 インフルエンザが徐々に増加してきたがまだ急増という程ではない。近隣幼稚園でA型が流行中。当院でもほとんどA型であるが幼児園年長児でB型が2例あった。  
 高熱例の中にヘルパンギーナ様水疱の見える例が少しある。  
 RS気管支炎は本日も5ヶ月乳児の陽性例があり散発ながら持続。  
 感染性胃腸炎が流行中。嘔吐が主でノロ様。ロタはない。  
 伝染性紅斑の流行が続いている。その他水痘は少し。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

ノロウイルス胃腸炎はやや減少してきた。嘔吐で始まり下痢の遷延するウイルス性腸炎もみられる。市内でB型インフルエンザの流行がある。A型インフルエンザは流行のきざしはまだない。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 3 週( 1 月 18 日～ 1 月 24 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL : 0744-47-3183

今週の概要 ● 咳エチケットを心がけましょう

## インフルエンザが流行しています

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	7.32	(5.47)	➔	↗	➔	↘
2	インフルエンザ	6.69	(1.96)	↗↗	↗↗	↗↗	↗↗
3	A群溶連菌咽頭炎	1.65	(1.26)	➔	➔	↑	↘
4	伝染性紅斑	1.09	(1.06)	↗	↗	➔	↓
5	RSウイルス感染症	0.74	(1.41)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↗↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➔**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数が、先週のおよそ3倍の6.69となり急増しています。保健研究センターでは、A型(H1pdm)を15例、A型(香港)を3例、B型を3例検出しており、混合で広がりを見せているようです。例年この時期からさらに患者数は増加していきます。人ごみを避けるなど予防対策を継続していきましょう。また、B型は高熱が出ないケースもありただの風邪だと思ひ込み受診が遅れてしまうことがあります。咳など呼吸器症状がある場合には早めに受診するようにしてください。

保健所	A 型		B 型
	H1pdm	香港	
奈良市		1	
郡山	5	1	1
中和	9	1	1
内吉野			1
吉野	1		

国立感染症研究所は、伝染性紅斑が過去10年間で最多であると発表しました。本県でも奈良市、郡山保健所管内で報告数の多い状況が続いており、今週は37例の報告がありました。子どもを中心に流行が広がっていますが、子どもから感染し、成人の患者も増えている可能性があります。子どもだけでなく、大人も予防に努めてください。

### ◆ 咳エチケットを心がけましょう ◆

①咳やくしゃみが出るときは、マスクをしましょう。

マスクがない場合は、鼻と口をハンカチや腕などで覆うようにします。

②使い終わったティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。

③咳やくしゃみを手で受けた場合は、石けんで丁寧に洗うようにします。

手にウイルスが付いたまま物に触れると、物にウイルスが付着し、その物に触れた別の人の手にウイルスが付いてしまい感染を広げます。

④マスクは正しく装着しましょう。

マスクは間違ったつけ方をしていると効果がありません。鼻の形状に合わせ、鼻からあごまでしっかり覆いましょう。

**\* 咳エチケットは、ウイルスが飛び散ることを防ぐだけでなく、まわりの人に不快な思いをさせないための大切なマナーです。**

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 4 週( 1 月 25 日～ 1 月 31 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL : 0744-47-3183

## インフルエンザ注意報発令中!

奈良県内全域でのインフルエンザの定点当たり報告数が、「10」を超え、注意報基準値を超えました。今後、さらに増加すると予想されます。感染拡大の防止のために①手洗いうがいの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	13.80	(6.69)	↗↗	↗↗	↗↗	↗↗
2	感染性胃腸炎	7.12	(7.32)	➔	➔	↗	➔
3	A群溶連菌咽頭炎	2.03	(1.65)	↗	➔	↑	↗
4	伝染性紅斑	1.15	(1.09)	↗	➔	↑	↗↗
5	RSウイルス感染症	0.62	(0.74)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↗↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➔**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数が、13.80と先週の倍以上に急増し注意報発令基準値である10を超えました。例年と比較すると遅い注意報発令です。近隣府県でも同様の傾向で、今後さらに患者数は増加することが予想されるため、人ごみをなるべく避け、手洗いやうがいを心掛けるなど予防対策を継続しましょう。また、ワクチンを接種していても発症することはありますので、症状がある場合には早めに医療機関を受診するように心がけてください。

伝染性紅斑は依然として奈良市保健所管内で報告数の多い状況が続いています。特に4歳から6歳の子どもの中心に流行が広がっています。こちらも注意が必要です。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数はインフルエンザの増加で多くなっている。

1月最終週よりインフルエンザの流行が始まりました。迅速検査ではA型がB型よりやや多い傾向ですが混合流行しています。

RSウイルス感染症と感染性胃腸炎は減少しています。流行性耳下腺炎が保育園児を中心に、伝染性紅斑が小学生を中心に流行が続いています。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はインフルエンザの増加と共に増加中。

インフルエンザはA型がやや多い状況でB型と混在。

学童に多く学級閉鎖も相次いでいる。症状は比較的軽症。

感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例が多い。ロタは未接種児に僅かに見られる。

流行性耳下腺炎が流行中。予防接種率が低いため学童に多くみられる。

伝染性紅斑も流行中。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

B型インフルエンザの流行が拡大している。学級、学年閉鎖のクラスもでている。インフルエンザ感染を契機にした無気肺併発例もあり。また、イナビルやタミフルの効果の乏しい例も数例みられる。

胃腸炎やムンプスの流行は減少してきた。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 5 週( 2 月 1 日～ 2 月 7 日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>TEL:0744-47-3183

## インフルエンザ注意報発令中!

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	24.06	(13.80)	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑
2	感染性胃腸炎	7.50	(7.12)	↗	↑	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.47	(2.03)	↑	↑	↗	↑
4	流行性耳下腺炎	1.79	(0.59)	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↗
5	伝染性紅斑	0.85	(1.15)	→	→	↓	↓

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ注意報発令中です。先週と比べると県内全域で報告数が急増しました。特に中和保健所西部地域では 35.55 と警報開始基準値(30)を超えており、特に注意が必要です。近隣府県でも患者数は増加傾向で、今後も増加すると考えられます。インフルエンザは飛沫感染や接触感染で広がります。電車や学校などの人が集中する場所では咳エチケットやマスクの着用、帰ったら手洗いやうがいをご心掛けてください。基本的な感染予防対策に加えて加湿器などの使用も有効です。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)が郡山保健所管内で流行しています。また、伝染性紅斑が奈良市保健所管内で引き続き流行しています。子どもの体調の変化に注意しましょう。なお、感染性胃腸炎の患者数は横ばいです。

寒い日が続いています。体調管理には十分気を付けましょう。

### ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(1月) ◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
ロタ	12	37			感染性胃腸炎(49)※
RS	3	5			RS ウイルス感染症(8)
アデノ	1	3			気管支炎(1)、熱性けいれん(1)、アデノウイルス扁桃炎(1)
アデノ	2	1			感染性胃腸炎(1)※、※※
アデノ	3	1			咽頭結膜熱(1)、伝染性紅斑(1)
アデノ	4	1			咽頭結膜熱(1)
アデノ	40/41	1	2		アデノウイルス腸炎(3)
インフルエンザ	AH1pdm	4	9		インフルエンザ(13)
インフルエンザ	AH3	1	1		インフルエンザ(2)
インフルエンザ	B	3		1	インフルエンザ(4)
コクサッキー	A10	1			手足口病(1)
コクサッキー	B5	2	2		感染性胃腸炎(4)
サイトメガロ			1		無菌性髄膜炎(1)
サボ		2	2		感染性胃腸炎(4)
ノロ	GI	1			感染性胃腸炎(1)※※※
ノロ	GII	16	24		感染性胃腸炎(40)※※、※※※
パレコ	1	2	1		敗血症性ショック(2)、無菌性髄膜炎(1)
ヘルバス	1		1		ヘルペス歯肉口内炎(1)
ライノ	A	2	2		ウイルス性突発疹(3)、RS ウイルス感染症(1)

※、※※、※※※重複感染

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 6 週( 2 月 8 日～ 2 月 14 日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>TEL:0744-47-3183

## !! インフルエンザ警報発令中 !!

奈良県内全域でのインフルエンザの定点当たり報告数が警報基準値「30」を越えました。終息基準値「10」を下回るまで、警報発令状態は続きます。まだ流行は継続すると思われるので、感染拡大の防止のために①手洗いの励行、②咳エチケット(マスク)をご心掛けてください。

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	34.46	(24.06)	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑
2	感染性胃腸炎	6.18	(7.50)	→	→	→	↗
3	A群溶連菌咽頭炎	1.76	(2.47)	→	↘	↗	↘
4	流行性耳下腺炎	1.00	(1.79)	→	↗	↗	↓
5	咽頭結膜熱	0.59	(0.59)	↗	↗	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザが警報開始基準値を超えました。県内全域で先週と比べ大幅に報告数が増えています。近畿では和歌山県を除くすべての府県で警報開始基準値を超えています。患者は幅広い年齢層から報告があり、特に 14 歳以下の小中学生で多く見られます。まだ流行が続くことが予想されますので、人が多く集まる場所へ出かける場合はマスクを着用、帰宅後の手洗いの励行などに努めましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数はインフルエンザの流行が本格化してきたため、多くなっている。A 型と B 型の混合流行で、症状は型による差ははっきりしない。今後今シーズン 2 回目の感染者が多くなるのが危惧される。奈良市医師会の調査では例年通りワクチン接種者と未接種者の割合は 3:7 でワクチンが発病阻止した効果はみられない。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はインフルエンザの増加と共に増加。インフルエンザは A 型、B 型混在。症状に明らかな差は見られないが 1 週間の間隔を開け A 型、B 型の同胞例があったがその場合家族の観察でも B 型が明らかに軽症経過であった。タミフル耐性を疑わせる例は今のところない。尚、発熱後半日で陽性を確認出来る例も多くキットが鋭敏になった印象。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例が多い。

他に A 群溶連菌感染症、流行性耳下腺炎がある。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

B 型インフルエンザの流行が続くなか、A 型も増加してきている。発熱遷延、嘔吐先行、咳嗽のみで熱のない例など、症状が多彩で診断のしづらい例も多い。また、ロタウイルス胃腸炎も見られた。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 7 週( 2 月 15 日～ 2 月 21 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

今週の概要 ◆気になる話題 ～ジカウイルス感染症について～

## ！！インフルエンザ警報発令中！！

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	36.50	(34.46)	↑	↑	↑↑	↑
2	感染性胃腸炎	6.03	(6.18)	→	↓	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.12	(1.76)	→	→	↗	↑
4	流行性耳下腺炎	0.68	(1.00)	↓	↓	↑	↓
5	RSウイルス感染症	0.44	(0.32)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況◆

インフルエンザ警報発令中です。県全体での定点あたり報告数は先週に引き続き増加しています。特に中和保健所西部地域では 62.00 と警報開始基準値(30)を大きく上回っています。和歌山県を除く近隣府県でも警報開始基準値を超えています。例年と比較すると遅い時期での流行となっていますがまだまだ流行が続くことが予想されます。県内でのインフルエンザの流行は、A型とB型の混合流行となっているため、1度インフルエンザにかかった方も2回目の感染の恐れがありますので、引き続き人が多く集まる場所へ出かける場合は咳エチケットやマスクの着用、帰宅後の手洗いを励行し感染予防に努めましょう。

感染性胃腸炎、A群連鎖球菌咽頭炎はほぼ横ばい、流行性耳下腺炎は減少しています。

## 薬局サーベイランスをご存じですか？

奈良県感染症情報センターでは、感染症の流行状況を調査し情報提供しています。インフルエンザの感染症の発生状況を把握する手法の一つとして活用している薬局サーベイランスをご紹介します。

<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>

薬局サーベイランスは、県内の調剤薬局の方々にご協力いただき、抗インフルエンザ薬の調剤の状況から、患者数・患者年齢を把握しています。調剤した情報(個人情報含まれていません。)が調剤した次の日の午前中には送信され、国立感染症研究所でとりまとめられ、情報公開されます。特色は、前日の大体の患者数が把握できることで、患者数の増減をみる発生動向調査の中では、最も速く発生状況を把握できます。

[http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/flu/2015\\_16/30\\_nara.html](http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/flu/2015_16/30_nara.html)

最新の薬局サーベイランスを見ると(第8週:2月22日～)は、第7週と同程度の患者数のようです。これまで急増を続けていたのが横ばいとなり、非常に多い状態が続いています。インフルエンザの発生動向は、まだまだ目が離せませんので、大変参考にしていきます。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 8 週( 2 月 22 日～ 2 月 28 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

## ！！インフルエンザ警報発令中！！

奈良県内全域でのインフルエンザの定点当たり報告数が警報基準値「30」を越えています。終息基準値「10」を下回るまで、警報発令状態は続きます。まだ流行は継続すると思われるので、感染拡大の防止のために①手洗いの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	43.44	(36.50)	↑	↑	↑	→
2	感染性胃腸炎	5.29	(6.03)	↓	→	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.74	(2.12)	↗	↗	↗	↓
4	流行性耳下腺炎	2.09	(0.68)	↑	↑↑	↑	→
5	伝染性紅斑	0.65	(0.44)	→	→	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況◆

**インフルエンザ警報発令中** インフルエンザの患者報告数は今週も県内全域で増加傾向です。特に郡山保健所管内の増加が著しく、先週の 1.7 倍の報告数となっています。今シーズンはインフルエンザの警報発令が前シーズンと比較して 5 週遅れでしたが、流行が始まって以降は急増を続け、前シーズンのピーク時を上回る報告数となっています。また、近府県の中では三重県に次いで報告の多い状況です。個人の対策が感染症予防には非常に重要となります。手洗いや咳エチケットを続けるようにしてください。

流行性耳下腺炎が増加しています。北部は注意レベルにまで達しています。患者は小学生が全体のおよそ半分を占めており、小学校での子ども間の流行が広がっているようです。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数はインフルエンザの流行で多くなっている。インフルエンザの大流行は週を追う毎に拡大している。A型とB型がほぼ半半ずつであったが、3月に近づくにつれてB型が優勢となっている。B型は必ずしも高熱が続かず、弛張熱様の熱型を示す場合もあり、症状が軽くても検査が必要と思われる。流行性耳下腺炎の流行が保育園児から小学生に広がっている。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザの流行で外来は増加中。インフルエンザは依然A・B型が混在しているが次第にB型優位になって来た。特に学童では殆どB型。熱は高熱でない例から、微熱持続例、一旦解熱後また出る例など種々の比較的軽度の例が多く検査必須の状況。タミフル耐性を示唆する熱持続期間の長い例もある。

他に感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎が少し。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザ流行中。A型も増加しているが、依然としてB型が主流胃腸障害を伴う例が多い。

ロタ、ノロといった感染性胃腸炎も増加、病初期は熱+胃腸炎のため鑑別が困難例もあり。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 9 週( 2 月 29 日～ 3 月 6 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

## !! インフルエンザ警報発令中 !!

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	36.30	(43.44)	→	→	↗	→
2	感染性胃腸炎	5.74	(5.29)	→	→	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.38	(2.74)	→	→	↗	↓
4	流行性耳下腺炎	1.26	(2.09)	→	→	↑	↑
5	突発性発しん	0.62	(0.35)	↑	↑↑	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

**インフルエンザ警報発令中** インフルエンザは前週よりやや減少しましたが、終息に至るにはまだ時間がかかりそうです。手洗いやマスクの着用を心がけ、感染しないように、また感染を広げないように注意しましょう。感染性胃腸炎は郡山保健所管内、中和保健所(西側旧葛城保健所管内)管内で患者数が多くなっています。ドアノブ、スイッチなど多くの人が触るところの消毒を行うなど感染拡大の防止に努めてください。流行性耳下腺炎は先週より患者報告数は減少しましたが、定点当たりの報告数が近府県の中で最も多い状況が続いています。

### ◆ 病原体(ウイルス)検出情報( 2 月 )

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
ロタ	A	21	42	1	感染性胃腸炎(64)※
アデノ	1	2			感染性胃腸炎(2)
アデノ	2	1	1		アデノウイルス扁桃炎(1)、ヘルパンギーナ(1)※
アデノ	3	1			感染性胃腸炎(1)
アデノ	4	1			咽頭結膜熱(1)
アデノ	5	2			感染性胃腸炎(2)※
アデノ	40/41	1			感染性胃腸炎(1)
ノロ	GI	1			感染性胃腸炎(1)
ノロ	GII	1	5	1	感染性胃腸炎(7)※
サボ			1		感染性胃腸炎(1)
コクサッキー	A9		1		感染性胃腸炎(1)
コクサッキー	B4	2			ヘルパンギーナ(2)※
コクサッキー	B5		1		感染性胃腸炎(1)※
ライノ	A	1	3		不明熱(2)、手足口病(2)
ライノ	C	2	2		中耳炎(1)、左下股筋力低下(1)、急性細気管支炎(1)、ウイルス性発疹症(1)
インフルエンザ	AH1pdm	8	9		インフルエンザ(17)
インフルエンザ	AH3	1	4		インフルエンザ(5)
インフルエンザ	B(ビクトリア系統)	1	2		インフルエンザ(3)
インフルエンザ	B(山形系統)	1	3	1	インフルエンザ(5)
RS			2		グループ(1)、RSウイルス感染症(1)
EB			1		不明熱(1)
水痘・帯状疱疹		1			水痘(1)
デング	1		1		デング熱(1)
デング	2		1		デング熱(1)

※重複感染(アデノ2・コクサッキーB4(1)、ロタA・アデノ5(2)、ロタA・ノロGII(1)、ロタA・コクサッキーB5(1))

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 10 週( 3 月 7 日～ 3 月 13 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

## !! インフルエンザ警報発令中 !!

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	31.85	(36.30)	→	→	→	→
2	感染性胃腸炎	5.50	(5.74)	→	→	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.76	(2.38)	↘	↘	→	↓
4	流行性耳下腺炎	1.59	(1.26)	→	→	↑	↑
5	伝染性紅斑	0.41	(0.53)	↘	↘	↗	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

**インフルエンザ警報発令中** インフルエンザの報告数は、横ばいです。A型とB型が混合して流行しているため、一度感染した人でもウイルスの型違いで再度感染することがありますので予防対策に努めてください。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は例年の同時期と比較して、報告数の多い状況が続いています。感染経路は接触感染と飛沫感染ですのでタオルや食器の共有をしないようにして下さい。

春休みに入ると人が多く集まる場所へ外出する機会が多くなります。予防対策の基本である手洗い、うがいを忘れず行いましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数はインフルエンザの流行の持続と花粉症の始まりにより増加している。インフルエンザは先々週は一旦減少に転じたが先週は再び増加している。B型の比率が増えているが、A型も依然としてみられる。流行性耳下腺炎の流行も持続している。保育園児から小学生に広がっている。感染性胃腸炎は高熱を伴う例が増えており、ロタウイルスが検出されている。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はやや落ち着いて減少傾向。インフルエンザの流行がピークを過ぎた印象。まだB型を中心にA型混在で流行中。比較的軽症。流行性耳下腺炎が増加。乳児にも見られる。感染性胃腸炎は減少しつつまだ流行あり。ロタはない。A群溶連菌感染症も流行中。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザの流行が続く。小児ではB型が大半だが、成人ではA型もよくみられる。重症例はなかったが、軽症例では診断が遅れ、発熱、咳が遷延するケースもみられた。胃腸炎は散発程度でまだ大きな流行にはなっていない。ムンプスの流行は落ち着きつつあるが、未だ続いている。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 11 週( 3 月 14 日～ 3 月 20 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

**!! インフルエンザ警報発令中 !!**

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	19.11	(31.85)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	4.53	(5.50)	↓	↓	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.82	(1.76)	→	↓	→	↑
4	流行性耳下腺炎	1.18	(1.59)	→	↓	↑	↗
5	突発性発しん	0.47	(0.38)	↗	→	↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

**インフルエンザ警報発令中** インフルエンザの患者報告数は県全域で減少していますが、県内全保健所管内で定点当たりの報告数が警報レベル終息基準値の「10.0」を下回るまで警報は継続します。

感染性胃腸炎は、やや減少しました。例年この時期は増減を繰り返すため、引き続き予防対策を継続して下さい。

インフルエンザ、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、流行性耳下腺炎は、第5週から感染症上位5疾患に毎週入っています。いずれも基本的な予防対策が重要となるため、石けんで手を洗い、マスクを着用するなどすぐにできごとを引き続き行い、感染症拡大防止に努めましょう。

◆ 春休み海外へ渡航される方へ ◆

春休みに海外へ旅行に行かれる方も多いかと思います。  
 出発前、旅行中、帰国後に注意すべきことを守り、楽しい旅の思い出を作ってください。

◇ 出発前に調べておくこと

渡航先で流行している感染症がないか調べておく。  
 渡航先で体調を崩した場合、医療機関はどこを頼ればいいのか知っておく。

◇ 旅行中に気を付けること

生水や食べ物を生で食べることを避け、十分火が通ったものを食べましょう。  
 虫の多いところでは、虫よけ剤を使用する。  
 ウイルスも持っていることもあるため、動物にはむやみに触らない。

◇ 帰国後に注意すること

帰国後、体調を崩し受診する場合は必ず渡航先を話す。  
 受診方法など、わからないことがあるときは検疫所等に問い合わせる。

◆ 参考ホームページ

海外安全ホームページ → <http://www.anzen.mofa.go.jp/>  
 厚生労働省検疫所 FORTH お役立ち情報 → <http://www.forth.go.jp/useful/index.html>

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 12 週( 3 月 21 日～ 3 月 27 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

**!! インフルエンザ警報発令中 !!**

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	11.65	(19.11)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	4.44	(4.53)	→	→	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.47	(1.82)	↓	→	↓	↓
4	流行性耳下腺炎	1.35	(1.18)	→	→	↗	→
5	伝染性紅斑	0.26	(0.32)	↓	↓	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

**インフルエンザ警報発令中** インフルエンザの患者報告数は、第9週以降減少を続けており、近府県についても本県と同様に減少しています。

感染性胃腸炎は、横ばいです。患者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれていますので、処理方法や消毒方法を誤ると、感染を拡大させてしまうことがあります。適切な処理・消毒方法を行うようにしましょう。

流行性耳下腺炎は、近府県の中で最も報告数の多い状況が続いています。小児に多い感染症ですが、今週は成人からの報告が1例ありました。ウイルスを吸い込む(飛沫感染)、ウイルスの付着した手で目や口に触れてしまう(接触感染)と感染することがあります。手洗いやうがいを行い感染しないように注意しましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

**北部地区(矢追医院)**

先々週からインフルエンザは減少に転じている。ほぼB型が検出されている。感染性胃腸炎は、幼児でロタウイルスがみられるが、多くはない。

**中部地区(岡本内科こどもクリニック)**

インフルエンザは減少してきたが、外来数は激減と言う程ではない。  
 感冒、流行性耳下腺炎、感染性胃腸炎、A群溶連菌感染症などが続いている。

**南部地区(県立五條病院小児科)**

インフルエンザの流行は落ち着いてきた。  
 胃腸炎患者は例年より少ない。軽症呼吸器症状は多いが、遷延例ではアレルギーも混在、鑑別困難例もあり。  
 ムンプスの地域流行は続いているが、やや下火。伝染性紅斑、伝染性単核球症が散見された。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 13 週( 3 月 28 日～ 4 月 3 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	9.98	(11.65)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	5.79	(4.44)	→	↗	→	↓
3	流行性耳下腺炎	2.74	(1.35)	↑	↑	↑	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.56	(1.47)	↘	↘	→	→
5	伝染性紅斑	0.44	(0.26)	→	↗	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザは県内全体での定点あたり報告数が警報の終息基準値(10)を下回り、警報は解除になりました。しかし、北部(奈良市、郡山保健所管内)では依然として 10 を超えていますので手洗い、うがいやマスクの着用といった感染予防を心がけてください。

流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は昨年の 10 月ごろから患者が増え、現在も例年よりも高いレベルで推移しています。近府県の中では奈良県が突出して多い状況です。患者年齢層は幼児～小学生の患者数が先週の約 2 倍に増加し、成人の患者報告が 3 例ありました。接触感染、飛沫感染によって感染は広がります。手洗い、うがいといった基本的予防策に加えて家族内に患者がいる家庭ではタオルの共用を避けるなどの配慮も必要です。

病原体(ウイルス)検出患者数 (平成 28 年 3 月分) \*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
ロタ A	7	4	1		感染性胃腸炎(12)
ノロ GII		5			感染性胃腸炎(5)
インフルエンザ AH1pdm	1	2			インフルエンザ(3)
インフルエンザ AH3	2	2			インフルエンザ(4)
インフルエンザ B(ヒクトリア系統)	1				インフルエンザ(1)
インフルエンザ B(山形系統)	5				インフルエンザ(5)
サポ		2			感染性胃腸炎(2)
デング 2					デング熱(1)
ヘルペス 1		1			ヘルパンギーナ(1)
ヒトメタニューモ	1				ヒトメタニューモウイルス感染症(1)

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 14 週( 4 月 4 日～ 4 月 10 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	4.94	(9.98)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	4.88	(5.79)	→	↗	↘	↓
3	流行性耳下腺炎	1.74	(2.74)	→	↑	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(1.56)	↘	→	↘	↓
5	突発性発しん	0.65	(0.24)	↑	↑	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点あたり患者報告数はさらに減少し、近府県すべてでインフルエンザ警報は解除されました。インフルエンザのシーズンは終盤を迎えています。定点あたり報告数が 1.0 を下回るまでは油断できません。引き続き感染予防を心がけてください。

春はロタウイルスによる感染性胃腸炎が増える時期です。ロタウイルスに感染した乳幼児は便が白っぽくなる場合があります。下痢によって脱水症状になることがあるため、しっかりと水分補給をすることが大切です。また、症状がよくなった後しばらくの間は便中にウイルスが排出されます。トイレ後の手洗いや、おむつの交換の後もしっかりと手洗いをしましょう。

4 番目に報告数の多い A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(A 群溶連菌咽頭炎)は、例年 4 月の中旬ごろから増え始め、6 月にピークを迎える疾患です。昨年の 11 月以降、例年よりも高いレベルで推移しています。うがいや手洗いで感染予防に努めましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

インフルエンザは毎週半減してきており、次週にはほぼ無くなりそうである。現在はB型ばかり検出されている。流行性耳下腺炎の流行が続いており、小学生から保護者までみられる。感染性胃腸炎はロタウイルスが多いようだが、ワクチンの普及で症状は軽く以前のような流行になる気配はない。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は減少。インフルエンザは激減し B 型がわずかに見られる程度で終焉まじかと思われる。感染性胃腸炎の流行が持続。幼児から年長児にロタ陽性例が見られる。乳児では見られない。他に A 群溶連菌感染症がわずか。



# 奈良県感染症情報

平成 28 年 15 週( 4 月 11 日 ~ 4 月 17 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.91	(4.88)	➡	➡	↗	↓
2	インフルエンザ	2.70	(4.94)	↓	↓	↓	↓
3	流行性耳下腺炎	1.41	(1.74)	➡	➡	➡	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.38	(1.21)	➡	➡	➡	➡
5	突発性発しん	0.53	(0.65)	↗	➡	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

### ◆ 県内概況 ◆

感染症は全体的に落ち着いて見えますが、一部地域で患者数が増加しているものがあります。感染性胃腸炎が、中和保健所管内(旧葛城保健所管内)で増加しています。感染性胃腸炎の患者は1歳~3歳児の報告が多くなっています。また、流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は例年より高いレベルで推移しており、郡山保健所管内で特に報告が多い状況です。基本的な感染予防として手洗い・うがいを励行しましょう。インフルエンザの定点あたり報告数が2.7となり、県内全域で減少しています。インフルエンザは定点あたりの報告数が1.0を下回るまでは油断できません。引き続き感染予防を心がけてください。

### ◆ 奈良県医師会からのお知らせ ◆

伊勢志摩サミット等開催に伴う感染症にかかる健康危機管理体制について  
5月26日・27日に伊勢志摩サミットが開催されるにあたり、テロ未然防止対策の観点から、自治体等での感染症に関する健康危機管理体制の確認が求められています。  
また、国立感染症研究所では、テロ対策として疑似症定点医療機関からの届出情報をもとに、原因不明の重症の感染性呼吸器疾患および原因不明の感染性皮膚疾患等の発生動向を注視されます。疑似症定点各位におかれましては、改めて届出基準をご確認いただき、感染症危機管理にご留意くださいますようお願いいたします。

### ◆ ◆ ゴールデンウィークに海外へ渡航される方へ~感染症にご注意ください~ ◆ ◆

- 海外では、日本にはない病気がたくさんあります。海外旅行では、時差や気候の違いなどから、(自覚していなくても)様々なストレスを受けます。この結果、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなってしまいます。無理のないスケジュールを心がけ、避けられる危険を避け、楽しい旅行にしましょう。
- 現地で気をつけること
  - ✓ 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、**虫よけ剤**を使うなどしましょう。
  - ✓ 中東へ旅行する方はラクダとの接触や、無殺菌のラクダ乳の摂取は避けましょう。
  - ✓ 動物は狂犬病、MERS や鳥インフルエンザなどのウイルスをもちていることがあるので、むやみに触らないようにしましょう。
- 出発前に確認しましょう
  - ✓ 渡航先で流行している感染症について
  - ✓ 渡航先で具合が悪くなったときのために、医療機関情報について
- 帰国時・帰国後に具合が悪くしたら
  - ✓ 帰国後に症状が出た方は、蚊に刺されないように注意し、病院受診の際に渡航歴を必ず話してください。受診方法で分からないときには検疫所または保健所にご相談ください。

参考:厚生労働省検疫所海外旅行者のための感染症情報(検疫所 FORTH)

次週(第16週分)の発行は、4月28日(木)午後になります。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 16 週( 4 月 18 日 ~ 4 月 24 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL: 0744-47-3183

## ◆ 今週の概要 ◆

● 月報告対象疾患報告状況(平成28年3月報)

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.18	(5.91)	➡	➡	➡	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	1.65	(1.38)	➡	↘	↗	↑
3	インフルエンザ	1.59	(2.70)	↓	↓	↓	↓
4	突発性発しん	0.65	(0.53)	↑	➡	↑	↓
5	流行性耳下腺炎	0.50	(1.41)	↓	↓	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎は、奈良市保健所、中和保健所西部(旧葛城保健所)管内からの定点あたり患者報告数が特に多く、1~4歳児の患者が約半数を占めています。この時期の感染性胃腸炎の原因となるウイルス(ノロウイルスやロタウイルス等)は、感染力が強く、症状が良くなってからもしばらくは便中に排出されます。便や嘔吐物を処理した後や食事の前は特に十分な手洗いが必要です。  
これから暑くなると、子どもの夏の感染症(咽頭結膜熱やヘルパンギーナ)の流行が始まります。ともに6月ごろから急増する疾患ですが、すでに4月から患者報告は増えてきています。手洗い・うがいを心がけ、おもちゃ・タオルの共用を避けるなど予防に努めてください。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

気候がよくなり感染症は少なくなっています。インフルエンザはここ2週間感染者はありません。ロタウイルスによる感染性胃腸炎が保育園児で流行しています。ただ、ワクチン普及のためか発熱や嘔吐が軽い場合が多いようです。流行性耳下腺炎は少なくなってきましたが、小学校以上でみられます。春に流行するRSやヒトメタニューモウイルスは少ないようです。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザは前週B型が1例あったのを最後に確認例はない。感染性胃腸炎は少しずつ流行。春先のウイルス感染症のパターンで流行性耳下腺炎、水痘が流行中、伝染性紅斑も1例あった。



次週(第17週分)の発行は、5月10日(火)午後になります。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 17 週( 4 月 25 日～ 5 月 1 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.38	(5.18)	➡	↗	↘	↗↗
2	A群溶連菌咽頭炎	2.00	(1.65)	↗	↗	↗	↗↗
3	流行性耳下腺炎	1.74	(0.50)	➡	↗	↘	↗
4	インフルエンザ	1.26	(1.59)	↘	↘	↘	↘
5	突発性発しん	0.76	(0.65)	↗	↗	↗	➡

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

## ◆ 県内概況 ◆

A群溶連菌咽頭炎が中和保健所西部地域(旧葛城保健所管内)で、多い状態が続いています。定点あたり報告数が他の地域では1.0前後であるのに比べると中和保健所西部地域は、5.8と非常に多く局所地域的な流行が見られます。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は数年ごとに流行する疾患ですが、現在流行している状態です。平成17～18年と平成21～22年に大きく流行して以来の流行となっています。4歳代を中心に広い年齢層から報告があります。耳下腺が腫れる前の無症状の頃から感染力があるため、学校などで出席停止となる前には、すでに周囲に感染を広げていることが考えられます。唯一の予防方法はワクチン接種です。

インフルエンザは、定点あたり報告数が1.0を下回るまでは、注意が必要です。あと少し、マスク・手洗いなどの感染予防対策を続けてください。

## ◆ お知らせ ◆

### ◆ マダニにご注意を!!

- そろそろ、薄着の季節となりました。暖かくなると、マダニなどの活動が活発になります。
- マダニは、SFTS(重症熱性血小板減少症候群)や日本紅斑熱などの病気を媒介します。
- 農作業やハイキングなどで、草むら・野山に入るときは、肌の露出がないように長袖・長ズボンを着用するようにしましょう。また、肌が露出する部分(首など)は、虫除けスプレーが有効です。
- 帰宅時は、家の外で着衣をよく払い、室内にダニを持ち込まないようにするなどの注意も必要です。
- マダニは、袖口・裾口などから入り込み、皮膚の柔らかい部分で刺します。帰宅後に、ご米粒ほどのマダニに刺されていないか、全身を点検しましょう。マダニは吸血すると巨大化し、テントウムシぐらいの大きさになっていたりします。もし、マダニに刺されている場合には、丁寧に除去する必要がありますので、皮膚科などに受診してください。
- 全国で、SFTS患者は5月に最も多く発生しています。

マダニ対策、今できること(国立感染症研究所)  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-lab/478-ent/3964-madanitaisaku.html>

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 18 週( 5 月 2 日～ 5 月 8 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.06	(5.38)	↘	↘	➡	↗↗
2	A群溶連菌咽頭炎	0.97	(2.00)	↘	↘	↘	↘
3	流行性耳下腺炎	0.91	(1.74)	↘	↘	➡	➡
4	咽頭結膜熱	0.62	(0.62)	↗	↗↗	↗↗	↗↗
5	突発性発しん	0.59	(0.76)	➡	➡	↘	➡

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

## ◆ 県内概況 ◆

第18週は連休があったため、全体的に患者報告数は少ない状況ですが、咽頭結膜熱は減少しておらず、横ばいとなっています。咽頭結膜熱は、これから夏期にかけて増加する夏の感染症でプールでの水を介して感染することもあることから、プール熱とも呼ばれます。感染経路は、通常は患者からの飛沫感染で、プールでは目の結膜からの感染もあります。感染を予防するには、患者との濃厚な接触を避けること、流行時はうがい・手洗いを励行すること、タオルの共用を避けることなどが大切です。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(矢追医院)

連休中の診療で、保育園も休みが多く、感染症は減っています。感染性胃腸炎は連休前は保育園児でロタウイルスが多かったが、後は減少している。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は減少。  
 インフルエンザは終焉。軽い感冒が主。  
 夏風邪パターンはまだ少ないがアデノ様の咽頭炎は少し見られる。  
 感染性胃腸炎は少しずつ持続。  
 流行性耳下腺炎が流行中。A群溶連菌感染症が少し。



# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 19 週 ( 5 月 9 日～ 5 月 15 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(4月)
- 4 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.88	(4.06)	↓	↓	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	1.62	(0.97)	→	↗	→	↑↑
3	流行性耳下腺炎	1.03	(0.91)	→	↓	→	↑↑
4	インフルエンザ	0.65	(0.24)	↓	↓	↓	↓
5	咽頭結膜熱	0.59	(0.62)	↗	↓	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎は、先週からほぼ横ばいで例年並みのレベルで推移しています。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)も横ばいですが、こちらは例年に比べてかなり高いレベルで推移しています。年末年始に大きく流行した伝染性紅斑は、例年並みまで落ち着いてきました。しかし、例年この時期から増加することがあります。同じように、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱も、この時期から増加してきます。引き続き、基本的な感染予防対策(手洗い・うがい)を心がけましょう。

## ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(4月) ◆

\*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	臨床診断名
ノロ GII		4		感染性胃腸炎(4)
ヒトメタニューモ		21		急性気管支炎(1)、hMPV 感染症(19)、hMPV+溶連菌感染症(1)
インフルエンザ B び'外ア系統	3			インフルエンザ(3)
インフルエンザ B 山形系統	2	1		インフルエンザ(3)
インフルエンザ AH1	2	1		インフルエンザ(3)
サボ		1		感染性胃腸炎(1)
A群ロタ	5	7		感染性胃腸炎(12)
ヘルペス 6B		1		発疹症、アデノウイルス感染症(1)※
サイトメガロ		1		発疹症、アデノウイルス感染症(1)※

※重複感染

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 20 週 ( 5 月 16 日～ 5 月 22 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.47	(3.88)	↗	→	↑	→
2	A群溶連菌咽頭炎	2.41	(1.62)	↑	↗	↑	↑
3	流行性耳下腺炎	1.68	(1.03)	↑	↑	↗	↑
4	突発性発しん	0.68	(0.44)	→	→	↗	↓
5	咽頭結膜熱	0.65	(0.59)	↗	↓	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が増加しています。ロタウイルスによる感染性胃腸炎の流行が続いているようです。ロタウイルスは、通常は乳児を中心に流行しますが、今年はいまだに流行がなかった遺伝子型が流行しており、年長児や成人も感染しています。外来情報にも書かれているように、ワクチン接種済みの人も感染しているようです。ロタウイルスは感染力が強く、症状がよくなってからもしばらくは便中にウイルスが排出されます。便や嘔吐物を処理した後や食事の前には手洗いを十分にしてください。

A群溶連菌咽頭炎が、中和保健所西部地区(旧葛城保健所管内)で警報開始基準値「8」となっています。予防としては、患者との濃厚接触をさけることが最も重要で、うがい、手洗いなどの一般的な予防法が大切です。抗菌薬服用により感染力は無くなりますので、早めの受診を心がけてください。

インフルエンザは、3週間連続で「1」を下回りましたので、流行は終息しているとみられます。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(矢追医院)

気温の上昇とGW 後で感染症はほとんどありません。溶連菌咽頭炎や伝染性紅斑や流行性耳下腺炎などがみられる。手足口病が保育園児でできています。発疹は少なく、発熱は無い。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は全般に多くないが週明けなどはまだ多い。夏風邪パターン(のど痛)の感染症像となり、高熱とアデノ様、ヘルパンギーナ様咽頭所見例が増加。流行性耳下腺炎、水痘が流行中。幼児で帯状疱疹の水疱形成重度の経過例があり、病院紹介した例があった。

感染性胃腸炎も持続、ノロ陽性例も見られる。ワクチン(ロタリックス)接種済みの2才男児例から乳児(陽性)と母に感染した家族例があった。名古屋でもワクチン接種済発症例が多いとの情報があり収集・検証が必要。

A群溶連菌感染症も僅かずつ持続。手足口病はまだなかった。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

感染性胃腸炎が流行中。外来で2日続けて点滴する例や、家族内感染もみられる。アデノウイルス、溶連菌の陽性例も増加、ヘルパンギーナ等夏カゼの増加傾向がみられる。遷延する咳嗽例はアレルギーか感染症かの鑑別が困難な場合あり。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 21 週 ( 5 月 23 日 ~ 5 月 29 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 保健研究センターだより 6月「カンピロバクター食中毒に御注意ください!」

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.91	(6.47)	➡	↗	➡	↘
2	A群溶連菌咽頭炎	2.32	(2.41)	↗	↑	↗	↑
3	流行性耳下腺炎	1.29	(1.68)	➡	➡	➡	↑
4	咽頭結膜熱	0.97	(0.65)	↑	↑	↑	↘
5	伝染性紅斑	0.79	(0.47)	↑	↑	↑	➡

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、ほぼ横ばいで推移していますが、例年比べると高いレベルです。また、暑くなってくと増加するA群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱も徐々に増加しています。昨年末から流行していた伝染性紅斑(リンゴほっぺ病)が、春には収まったかに見えましたが、今週は増加しています。

全数報告対象疾患では、腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えてきました。これまでの報告ではO(オー)157やO26などが検出されています。牛ユッケの食中毒で有名になりましたが、接触感染を起こすこともあります。トイレ後の手洗いタオルを共有することは感染を広げることになりますので、注意が必要です。

## オリンピック・パラリンピックでブラジルへ渡航される方へ

- もうすぐオリンピック・パラリンピックがブラジル・リオデジャネイロで開催される予定です。一方、ブラジルには一部に黄熱の予防接種が推奨される地域があります。
- ブラジルに渡航する場合、渡航地域および経由する国と地域によっては、黄熱の予防接種が推奨されており、予防接種国際証明書(イエローカード)の提示を求められることがあります。
- 渡航が決まったら、黄熱の予防接種を必要とするかを確認してください。ブラジルへ入国の後に訪れた国では提示を求められることがあります。
- 予防接種を行うことが決まったら、以下の点に注意が必要です。

- 黄熱の予防接種が出来る接種機関は限定されています。
- ※国際的な証明書を交付しなければならぬことから、全国24か所の接種機関(近畿では大阪検疫所・関西空港検疫所・神戸検疫所)のみで実施しています。最寄りの医療機関では接種できません。
- 黄熱の予防接種は予約制です。早めに予約をしてください。
- ※希望者が多い場合は、希望日に接種できないことがあります。特に渡航のピーク時期は予約もできないことがあります。
- 黄熱の予防接種証明書は、接種10日後から10年間有効です。

《出典: 厚生労働省検疫所 FORTH (<http://www.forth.go.jp/news/2016/02051708.html>)》

なお、ブラジルではジカウイルス感染症も流行しています。妊婦及び妊娠の可能性のある方は、可能な限り流行地域への渡航を控えてください。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 22 週 ( 5 月 30 日 ~ 6 月 5 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.50	(5.91)	➡	➡	➡	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	2.18	(2.32)	➡	↗	➡	↓
3	流行性耳下腺炎	1.59	(1.29)	➡	↗	↘	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.97	(0.97)	↗	↑↑	↘	↓
5	伝染性紅斑	0.32	(0.79)	↘	↘	➡	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は奈良市保健所管内、吉野保健所管内で増加しています。幼稚園児から小学校低学年が流行の中心となっています。

A群溶連菌咽頭炎は中和保健所西部地区(旧葛城保健所管内)で報告の多い状況が続いています。咽頭痛がある場合には、早めに医療機関を受診するようにしましょう。

子どもの夏風邪トリアオである咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病、ヘルパンギーナは、例年この時期から増加してきます。また、梅雨に入ると気温の差から体調を崩しやすくなります。手洗い、うがいを励行し予防に努めましょう。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(矢追医院)

感染症は少ない状態が続いている。目だったものは無く、流行性耳下腺炎がよくみられる程度である。アデノウイルス感染症が少しあり、夏が近づいている感がある。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は少ない。  
 アデノ様咽頭の軽度の夏風邪様例が多い。ヘルパンギーナはまだ見られない。  
 流行性耳下腺炎、水痘が流行中。  
 A群溶連菌感染症で8才と母が典型的発疹の同日発症(子供陽性・母陰性)例があった。発熱に先行し一見A群溶連菌感染症様の発疹が翌日全部が出血斑に変わった8才例があり紹介精査とした。  
 乾性咳嗽の多い例が散見される。  
 感染性胃腸炎はわずかずつ流行。今季2回目のノロ発症の幼児があった。2回目も嘔吐・下痢が持続し軽症経過ではなかった。

### 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

嘔吐中心の胃腸炎の流行が続いている。  
 また、夏カゼと考えられる高熱の咽頭炎や溶連菌感染症も多い。  
 昨年より引き続きムンプスの流行もある。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 23 週 ( 6 月 6 日 ~ 6 月 12 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(5月)

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.00	(4.50)	→	↘	→	↘
2	A群溶連菌咽頭炎	2.68	(2.18)	↗	↑	↗	↓
3	流行性耳下腺炎	1.26	(1.59)	→	→	→	→
4	咽頭結膜熱	1.06	(0.97)	↗	↗	↗	↓
5	伝染性紅斑	1.03	(0.32)	↑	↑↑	↘	↓

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱は、増加傾向です。咽頭結膜熱は、プールでの感染があることからプール熱とも呼ばれています。幼稚園や小学校でプール開きがあると、感染が広がる可能性があります。プールの前後はシャワーを浴び、タオルの共有は避けるようにしましょう。  
 伝染性紅斑は、北部で増加しています。奈良市保健所管内では警報開始基準値の 2.0 を超えています。不顕性感染(感染しているが臨床症状を示さない)した人からの感染があるため対策は難しいですが、手洗い、うがいを忘れず行い感染リスクを最小限にできるよう努めましょう。  
 流行性耳下腺炎は、横ばいです。

## ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(5月) ◆

\*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A群ロタ	G2	2	3			感染性胃腸炎(4)、ロタ腸炎(1)
ノロ	GII		7			感染性胃腸炎(7)
サボ		2	2			感染性胃腸炎(4)
アデノ	1	1	1			発疹症(1)、急性気管支炎(1)
アデノ	2		1			インフルエンザ疑(1)
アデノ	5		1			感染性胃腸炎及び上気道炎(1)
パラインフル	1		4			急性気管支炎(3)、急性上気道炎(1)
ライノ	A	1	1			無菌性髄膜炎(1)、感染性胃腸炎(1)
ライノ	C	1				原因不明発疹症(1)
ヒトメタニューモ		1	1			hMPV感染症(2)
パレコ	1		1			発疹症(1)

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 24 週 ( 6 月 13 日 ~ 6 月 19 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.91	(4.00)	→	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	2.76	(2.68)	↗	↗	→	↘
3	ヘルパンギーナ	1.85	(0.68)	↑↑	↑↑	↑↑	→
4	流行性耳下腺炎	1.35	(1.26)	→	→	→	↓
5	伝染性紅斑	1.00	(1.03)	↑	↑	↘	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナの報告が急増しています。北部(奈良市保健所・郡山保健所)及び中和保健所西側(旧葛城保健所)地域からの報告が多い状況です。また、近隣2府4県でも増加傾向です。ヘルパンギーナは例年この時期から急増する疾患で2~4日の潜伏期の後、突然の高熱と咽頭痛を生じます。口腔内の水疱がひどく、食事や水分をとることも困難になり脱水症状を引き起こすこともあります。予防法は、感染者との密接な接触を避けることや手指の消毒、うがいを行うことです。ヘルパンギーナ以外の夏の代表疾患である咽頭結膜熱は、前週より減少しました。また、手足口病は奈良県全体の報告が6例と少数です。  
 伝染性紅斑及び流行性耳下腺炎は、今週も北部から報告の多い状況が続いています。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(矢追医院)

梅雨入りしたが、手足口病やヘルパンギーナ等の夏風邪は少しみられるだけでこれからと言った感じである。手足口病の発疹は今シーズンはあまり大きくないようだ。伝染性紅斑が幼児から成人まで幅広くでている。溶連菌咽頭炎や流行性耳下腺炎も続いてみられる。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

アデノ陽性例が増加。ヘルパンギーナはまだ少ない。  
 学校での流行性耳下腺炎の流行が持続。流行性耳下腺炎予防接種未接種が多い。  
 学童でレ線菌肺炎肺炎像を示す例が2例続いた。  
 水痘、A群溶連菌感染症も流行中。  
 感染性胃腸炎も少しずつであるが流行持続。ノロ陽性例もある。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ムンプスの流行が依然続いている。髄膜炎の合併も多いが、いずれも軽症で経過した。溶連菌感染も引き続き流行中。  
 ヘルパンギーナが増加、高熱を伴うが1~2日で落ち着いている。手足口病はまだみられない。  
 ウイルス性胃腸炎も多く、連日外来で点滴必要な例もあり。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 25 週 ( 6 月 20 日～ 6 月 26 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 夏に気を付けたい感染症
- 5 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

## ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.24	(4.91)	➡	➡	➡	➡
2	ヘルパンギーナ	3.41	(1.85)	⬆	⬆	⬆	⬆
3	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(2.76)	➡	➡	➡	➡
4	流行性耳下腺炎	1.35	(1.35)	➡	➡	➡	➡
5	伝染性紅斑	1.15	(1.00)	⬆	⬆	⬆	⬆

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ⬆急増、⬆増加、↔やや増加、➡横ばい、➡やや減少、⬆減少

## ◆県内概況◆

ヘルパンギーナは、県全域で増加しています。中和保健所西側(旧葛城保健所)地域では定点当たりの報告数が7.33と警報開始基準値の6.0を超えています。また、1~2歳児からの報告が全体の約6割を占めています。

流行性耳下腺炎は、例年のこの時期と比較して高い水準のまま横ばいです。国立感染症研究所によると、今年は2010-11年に次ぐ流行が見られており、今夏にかけて患者が多い状態が続くと予想されています。また、ムンプスウイルスが検出された無菌性髄膜炎の報告数も増加傾向であると発表しています。

伝染性紅斑は、今週も北部からの報告が多く、奈良市保健所管内では警報開始基準値を上回る報告数となっています。

## ◆夏に気を付けたい感染症◆

これから夏にかけて気を付けたい感染症は、夏の代表的な疾患である咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病、ヘルパンギーナなどがあります。いずれの疾患も飛沫感染や接触感染で感染します。手洗い、うがい、咳エチケットを行い、タオルやおもちゃの共有は避けるようにしましょう。

手足口病や前週から急増しているヘルパンギーナは、回復後も便からウイルスが排泄されるため、おむつの取り扱いにも気を付けて下さい。

また、海外に渡航される方は蚊媒介感染症のジカ熱やデング熱などにも注意して下さい。

感染症情報については、厚生労働省や厚生労働省検疫所のホームページにも掲載されています。

- 厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>
- 厚生労働省感染症情報 [http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-ka nsenshou/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-ka nsenshou/)



# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 26 週 ( 6 月 27 日～ 7 月 3 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.00	(4.24)	➡	➡	➡	⬆
2	ヘルパンギーナ	3.59	(3.41)	⬆	⬆	⬆	⬆
3	流行性耳下腺炎	1.53	(1.35)	➡	➡	➡	➡
4	A群溶連菌咽頭炎	1.50	(2.09)	➡	➡	➡	➡
5	伝染性紅斑	1.06	(1.15)	⬆	⬆	⬆	⬆

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ⬆急増、⬆増加、↔やや増加、➡横ばい、➡やや減少、⬆減少

## ◆県内概況◆

ヘルパンギーナが増加しています。特に2歳以下の報告が多く、今週は郡山保健所管内の報告が増加しています。口の中、のどにできる水泡がやぶれて強く痛むため、水も飲みにくい状態が続きます。ワクチンはありません。感染者との密接な接触を避け、手洗いやうがいをい行い感染予防に努めましょう。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は横ばいで推移していますが、例年より高い水準となっています。また、伝染性紅斑(りんご病)も例年より高い水準となっています。

## ◆小児科外来情報◆

### 北部地区(矢追医院)

梅雨明け目前となり、外来も夏模様です。ヘルパンギーナが保育園児を中心に流行しています。突然の発熱が2日間程度あり、咽頭部に水泡を伴う発赤から口内炎が出現します。一方、手足口病はあまり多くありませんが、口腔内頬部と舌部に発赤を伴う口内炎ができます。熱は同様に2日間程度です。咽頭結膜熱もありますが、前2疾患より遥かに少ない状況です。伝染性紅斑と流行性耳下腺炎の流行も続いています。こちらは小学生以上に多くみられます。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

乳幼児を中心に夏風邪が多い。短期間の高熱、咽頭発赤の軽症経過が殆ど。ヘルパンギーナも増加してきた。アデノ様の例も見られる。手足口病はまだない。伝染性紅斑も少し見られる。流行性耳下腺炎の流行が持続している。予防接種未接種の学童に多い。高校生にも見られたが発熱・腫脹は高度であった。感染性胃腸炎も流行。その他水痘、A群溶連菌感染症が見られた。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行が続いている。咽頭痛、高熱が中心だが、頭痛や嘔吐を伴う例では髄膜炎合併の疑われる場合もあった。胃腸炎も多く、熱、嘔吐や黄色い水様下痢だが、アデノは陰性の夏かぜと思われる。ムンプス流行も依然続いており、髄膜炎入院例も多いが、比較的軽症で経過している。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 27 週 ( 7 月 4 日 ~ 7 月 10 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(6月)

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	ヘルパンギーナ	4.97	(3.59)	↑↑↑	↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.06	(5.00)	→	↓	→	↓
3	流行性耳下腺炎	2.00	(1.53)	↗	↗	↑	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.94	(1.50)	→	↓	→	↘
5	伝染性紅斑	1.26	(1.06)	↗	↗	→	↓

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナが流行しています。中和保健所西部(旧葛城保健所)管内では、定点あたりの報告数が8.17となっており、警報レベルです。体調が回復しても、1か月程度は便からウイルスが排出されるため、排便後やおむつの交換後は石けんによる手洗いが重要です。  
 伝染性紅斑(りんご病)は、郡山保健所管内で警報レベルとなっています。基本的な感染予防対策(手洗い・うがい)を心がけましょう。

## ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(6月) ◆

\*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A群ロタ	G2	1	1			感染性胃腸炎(2)
A群ロタ	G3		1			感染性胃腸炎(1)
RS			2			気管支炎(1)、気管支肺炎(1)
アデノ	1	1				感染性胃腸炎(1)
アデノ	40/41		1			感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ	B(ビクトリア系統)		1			インフルエンザ(1)
エコー	25		1			感染性胃腸炎(1)
サボ			1			感染性胃腸炎(1)
ノロ	G II		4			感染性胃腸炎(4)
バラインフル	1	1	1			その他(2)※
ライノ	A		1			肝機能障害(1)
ライノ	C		3			肺炎(1)、その他(2)※
ムンプス		1				流行性耳下腺炎、髄膜炎(1)

※重複感染

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 28 週 ( 7 月 11 日 ~ 7 月 17 日 )  
 奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 6月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	ヘルパンギーナ	4.44	(4.97)	↑	↗	↑	→
2	感染性胃腸炎	3.91	(4.06)	→	↘	→	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	1.71	(1.94)	↘	↘	→	↓
4	流行性耳下腺炎	1.29	(2.00)	→	↘	→	↘
5	伝染性紅斑	0.59	(1.26)	↘	↓	↗	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

先週に引き続き、ヘルパンギーナが流行しています。中和保健所西部(旧葛城保健所)管内で増加し、警報レベルを超えています。患者は、5歳未満が8割を占めています。感染者との密接な接触を避け、うがいや手指の消毒を行ない、感染予防に努めましょう。  
 暑い日が続いています。体調管理に気を付け、体調不良を感じたら早めに医療機関を受診してください。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(矢追医院)

外来患者数は学校や幼稚園が夏休みになりますから、減ってきそうです。ヘルパンギーナの流行は保育園児で続いています。類縁の手足口病は最近みられません。流行性耳下腺炎が小学校以上成人までみられます。中学生以上で細菌性の感染性胃腸炎がよくみられていましたが、このところノロと思われるウイルス性の嘔吐腹痛下痢が保育園児で増えてきました。これも軽症です。1週間前までヒトメタニューモウイルスによる気管支炎が時にみられました。

### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

学童で流行性耳下腺炎の流行が持続している。  
 ヘルパンギーナ、アデノ様咽頭炎が増加、まだそれ程多くはない。  
 手足口病はまだない。感染性胃腸炎があるが軽症。  
 咳嗽の多い乳幼児例があるがhMPV 検査陽性例はなかった。

### 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行が続く。1~2日の高熱、咽頭痛が中心で摂食困難例では輸液するが、髄膜炎合併はなかった。  
 手足口病、プール熱は散発。ムンプスの流行は少し落ち着いてきた。胃腸炎は夏かぜ由来がほとんどで、白っぽい下痢でもアデノ陽性であった。遷延咳嗽例ではhMPV 陽性の肺炎が数例みられた。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 29 週 (7 月 18 日～ 7 月 24 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- オリンピック・パラリンピックでブラジルへ渡航される方へ ～ジカウイルス感染症にご注意を～
- 気になる話題 「女子の梅毒 増加中！」

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	ヘルパンギーナ	3.21	(4.44)	➡	➡	➡	➡
2	感染性胃腸炎	3.09	(3.91)	➡	➡	➡	➡
3	流行性耳下腺炎	1.71	(1.29)	➡	➡	➡	➡
4	A群溶連菌咽頭炎	1.38	(1.71)	➡	➡	➡	➡
5	伝染性紅斑	1.06	(0.59)	➡	➡	➡	➡

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナは先週よりやや減少しましたが、報告数の多い状況が続いています。回復後も1か月程度はウイルスが便中に排出されるため、おむつの交換や排便後にはしっかりと石けんで手を洗いましょう。

伝染性紅斑(りんごほっぺ病)は、例年より高い水準で推移しています。奈良市保健所管内では、定点あたりの報告数が2.44となっており、警報レベルです。この感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常や流産があります。不顕性感染(感染しているが臨床症状を示さないこと)している人からの感染があるため予防は難しいですが、手洗い・うがいを励行し予防に努めましょう。

## オリンピック・パラリンピックでブラジルへ渡航される方へ ～ジカウイルス感染症にご注意を～

- ジカウイルス感染症(ジカ熱)が中南米を中心に世界で流行しています。
- 蚊を媒介して感染し、一般的には軽症とされていますが、妊娠中の母親からお腹の赤ちゃんに感染する可能性があります。妊婦や妊娠の可能性のある人の流行国への渡航は控えてください。
- 流行地域からの帰国者は、症状の有無にかかわらず、虫よけ剤の使用など蚊に刺されないための対策を少なくとも2週間程度は特に注意を払うことを推奨します。
- 性行為により、男性から女性パートナーへ感染した事例が報告されています。流行地域から帰国した男女は、症状の有無にかかわらず、最低8週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えることを推奨します。

- ジカウイルス感染症については、下記のホームページをご参考に
- ・渡航時におけるジカウイルス感染症への注意について (厚生労働省検疫所)  
<http://www.forth.go.jp/news/2016/01261317.html>
  - ・ジカウイルス感染症について (厚生労働省)  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>
  - ・夏は蚊にご注意ください。(県保健予防課)  
<http://www.pref.nara.jp/item/161272.htm#moduleid17426>

蚊に刺されないように注意!

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 30 週 (7 月 26 日～ 7 月 31 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.41	(3.09)	➡	➡	➡	➡
2	A群溶連菌咽頭炎	1.91	(1.38)	➡	➡	➡	➡
3	ヘルパンギーナ	1.88	(3.21)	➡	➡	➡	➡
4	流行性耳下腺炎	1.71	(1.71)	➡	➡	➡	➡
5	伝染性紅斑	0.97	(1.06)	➡	➡	➡	➡

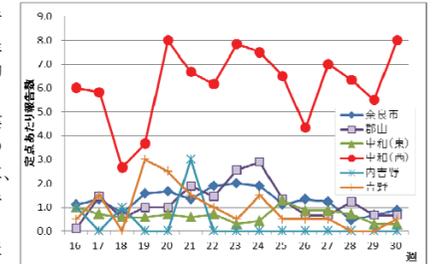
発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナは、徐々に減少しています。最も流行していた時期に比べると定点あたり患者報告数は半分程度になっていますが、もう少しの間、こまめな手洗いを励行するなど、感染予防対策を続けましょう。

A群溶連菌咽頭炎が、中和保健所西部(旧葛城保健所管内)地域で警報開始基準値の8を超えており、他の地域と比べて高い状態が続いています。予防のためには、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがい、手洗いなどの一般的な予防法も有効です。

流行性耳下腺炎、伝染性紅斑(りんごほっぺ病)は、ほぼ横ばいで、例年に比べると非常に高いレベルで推移しています。



A群溶連菌咽頭炎報告状況

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(矢追医院)

夏風邪が中心の外來です。ヘルパンギーナが多く、口蓋の口内炎は小さく、数も少ないようです。手足口病は少なく、口内炎はこちらも小さく目立ちにくく、舌にもみられ、四肢の水疱性発疹も小さく少ない。相変わらず流行性耳下腺炎と伝染性紅斑がよくみられます。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

ヘルパンギーナ、アデノ様咽頭炎の夏風邪が中心であるが、咳嗽の例も多く年長児ではマイコプラズマ様、乳児ではぜろぜろの例もあり、季節外れのRS陽性例もあった。感染性胃腸炎もあり水様便例もあるがノロ、ロタ陽性例はない。手足口病は今夏まだない。流行性耳下腺炎の流行が持続。

### 南部地区(奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナは減少している。咽頭発赤のみの夏カゼが目立つようになってきた。胃腸炎からは便アデノ陽性例がよくみられる。遷延する咳嗽、反復する発熱例ではhMPV やマイコプラズマ陽性が多く、入院後の経過は順調に軽快した。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 31 週( 8 月 1 日～ 8 月 7 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(7月)

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.97	(3.41)	↓	→	↓	↓
2	流行性耳下腺炎	2.03	(1.71)	↗	→	↗	↑
3	ヘルパンギーナ	1.71	(1.88)	↓	↓	↓	→
4	伝染性紅斑	0.76	(0.97)	↓	→	↓	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.68	(1.91)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

### ◆県内概況◆

流行性耳下腺炎(おたふく風邪)、伝染性紅斑(リンゴほっぺ病)はほぼ横ばいですが、例年に比べると報告が非常に多い状況が続いています。  
 また、例年秋から年末にかけて急増するRSウイルス感染症の報告が増えてきています。RSウイルス感染症は、2歳までにほとんどのヒトが感染しますが、乳児期、特に生後数週間～数ヶ月の子どもは重症化することもあり注意が必要です。年長児や大人では症状が軽い風邪程度のため感染している事がわからないこともあります。咳・鼻水などの症状がある人は、乳児との接触を避けることが大切です(平成26年36週気になる話題を参考にしてください<http://www.pref.nara.jp/secure/114779/wadai20140912.pdf>)。

### ◆病原体(ウイルス)検出情報(7月)◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
アデノ 1		1			気管支炎(1)
アデノ 2		4			咽頭炎(1)、感染性胃腸炎(3)
アデノ 5		2			感染性胃腸炎(1)、下気道炎(肺炎)(1)
インフルエンザ B (ビクトリア系統)		1			インフルエンザ(1)
コクサッキー A4		7	2		インフルエンザ(1)、上気道炎(咽頭)(2) ヘルパンギーナ(2)、無菌性髄膜炎(1) 感染性胃腸炎(3)※
コクサッキー B1	1				感染性胃腸炎(1)
サポ		5		1	感染性胃腸炎(6)
ノロ GII		2			A群溶連菌咽頭炎(1) 感染性胃腸炎(1)※
ヒトメタニューモ		2			気管支炎(2)
ムンプス		2			流行性耳下腺炎・髄膜炎の合併(1) 無菌性髄膜炎(1)
ライノ A	1	4			その他(1)、急性気管支炎(2) 上気道炎(1)、発疹症(1)
ライノ C		1			急性上気道炎(1)

※重複感染

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 32 週( 8 月 8 日～ 8 月 14 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.29	(2.97)	→	↓	→	↓
2	流行性耳下腺炎	1.56	(2.03)	→	↓	↓	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.32	(0.68)	→	↗	↓	↑↑
4	ヘルパンギーナ	1.06	(1.71)	↓	↓	↓	↓
5	突発性発しん	0.68	(0.44)	→	↑	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

### ◆県内概況◆

流行性耳下腺炎(おたふく風邪、ムンプス)が例年の約3倍程度の多い状況が続いています。流行性耳下腺炎は、症状が現れる前から感染力があり、また感染力も強いので、広がりやすいとされています。唯一の予防方法はワクチン接種です。  
 また、マイコプラズマ肺炎の流行が続いています。昨今の今頃から増加し、一旦春には低下しましたが、5月頃から多い状況が続いています。マイコプラズマ肺炎は、3～4年に一度流行し、ちょうどオリンピックの開催時期と重なるため、「**オリンピック病**」とも呼ばれてきました。感染経路は、飛沫感染(咳、くしゃみなどから感染)や接触感染(病原体がついているものを触った手で鼻や目を触ることで感染など)で、特に患者との濃厚接触により感染するため、保育施設などの閉鎖施設内や家庭などで広がります。潜伏期間は2～3週間と長く、発熱や頭痛などから始まり、その3～5日後から乾いた咳が出始め、咳は徐々に強くなり、解熱後も長期間(3～4週間)続きます。抗菌薬で治療できますので、咳が続くときには医療機関を受診するようにしてください。

### ◆小児科外来情報◆

#### 【北部地区(矢追医療)】

お盆が近くなり、ヘルパンギーナや手足口病等の夏風邪は減少しています。潜伏期間が長いので、伝染性紅斑や流行性耳下腺炎の流行が続いています。感染性胃腸炎はノロウイルスと思われるものと成人では肉の生食によるカンピロバクタが半々程度あります。

#### 【南部地区(南奈良総合医療センター小児科)】

ヘルパンギーナは減少。咽頭発赤、高熱、頭痛(呼吸器症状乏しい)のウイルス性咽頭炎が増加、夏カゼと考えている。  
 ムンプスが再度流行してきている。  
 hMPVの肺炎が散発、RSVの細気管支炎もあった。



# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 33 週( 8 月 15 日～ 8 月 21 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 7月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.94	(3.29)	➡	➡	➡	⬆️⬆️
2	流行性耳下腺炎	1.18	(1.56)	➡	➡	➡	➡
3	A群溶連菌咽頭炎	0.85	(1.32)	➡	➡	➡	⬆️⬆️
4	伝染性紅斑	0.50	(0.21)	➡	➡	➡	➡
5	突発性発しん	0.44	(0.68)	➡	➡	➡	➡

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆️**急増、**⬆️**増加、**➡**やや増加、**➡**横ばい、**➡**やや減少、**⬆️**減少

### ◆県内概況◆

33週はお盆休みの医療機関が多く全体的に患者報告数が少なくなっています。  
 伝染性紅斑(リンゴほっぺ病)、流行性耳下腺炎(おたふく風邪)が、引き続き高いレベルとなっています。  
 伝染性紅斑は、北部(奈良市保健所、郡山保健所管内)で多く、流行性耳下腺炎は、中和保健所管内で多くなっています。  
 また、オリンピック病とも呼ばれるマイコプラズマ肺炎も例年と比べると高いレベルです。マイコプラズマ肺炎は、こじらせると入院加療が必要となります。続く咳を自覚したら、早めに受診するようにしてください。

## 麻疹(はしか)に関する注意喚起

**独立行政法人 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター Disease Control and Prevention Center (DCC)**  
 20時間前

【麻疹に関する注意喚起】(発表・連絡ベースに修正しました)  
 麻疹発症中の成人男性が8月14日に千葉県幕張メッセで開催されたコンサートに参加、コンサートには各地からの参加者がいますので、潜伏期間を考えると本日から数日間の受診者では注意が必要です。  
 夏休みやコンサートで東京・千葉・神奈川にかけたワクチン未接種・未罹患者の受診相談・診療の際には2次感染予防含めた対応の検討を。

報道発表: 2016年8月23日(西宮市)  
 症例: 19歳男性 麻疹の届け出あり  
 西宮市は千葉県・千葉市・神奈川県・東京都中央区に連絡  
 医師会等で注意喚起されている情報:  
 8月9日 39.1℃の発熱  
 8月13日から全身に発疹  
 8月13日～15日 東京・神奈川訪問あり  
 8月14日 幕張メッセで開催されたコンサート(ジャスティン・ビーバー)に参加  
 8月19日 麻疹と診断  
 ★麻疹の対応についての相談は保健所へ

国立国際医療研究センター国際感染症センターが、8月24日に全国の医療機関に向けて公表した情報です。(フェイスブックより)

麻疹(はしか)は、年齢にかかわらず命に関わる重篤な疾患です。麻疹ウイルスは感染力が強く、飛沫感染、接触感染だけではなく、空気感染(近くにいるだけで感染)するため、手洗い、マスクで予防はできません。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。

情報にあるコンサートに参加した後、風邪症状や発疹などがある方は、医療機関にご相談ください。また医療機関に行かれるときは、最初に受付で麻疹かもしれない旨を申し出てください。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 34 週( 8 月 22 日～ 8 月 28 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.59	(2.94)	➡	➡	➡	⬆️
2	流行性耳下腺炎	1.56	(1.18)	➡	➡	➡	⬆️
3	A群溶連菌咽頭炎	1.03	(0.85)	➡	➡	➡	⬆️⬆️
4	ヘルパンギーナ	0.74	(0.38)	➡	➡	➡	➡
5	突発性発しん	0.68	(0.44)	➡	➡	➡	⬆️⬆️

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆️**急増、**⬆️**増加、**➡**やや増加、**➡**横ばい、**➡**やや減少、**⬆️**減少

### ◆県内概況◆

流行性耳下腺炎(おたふく風邪・ムンプス)は、例年と比べるとかなり高いレベルが続いています。流行性耳下腺炎は、2～3週間の潜伏期の後、唾液腺の腫れや痛み、発熱から始まります。接触感染、飛沫感染で広がり、その感染力はかなり強いとされます。合併症として、無菌性髄膜炎が約10%に出現するとされており、思春期以降の感染では、男性で約20～30%に睾丸炎、女性では約7%に卵巣炎を合併するとされています。また、非常にまれですが20,000例に1例\*程度に難聴を合併すると言われており、永続的な障害となる重要な合併症のひとつです。唯一の予防方法はワクチン接種です。  
 \*1,000例に1例という調査結果もあります。

マイコプラズマ肺炎も、引き続き高いレベルが続いています。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(矢追医療)

まだ、猛暑が続いていますが、ヘルパンギーナ等の夏かぜは減少しました。潜伏期間の長い伝染性紅斑や流行性耳下腺炎が継続的にみられます。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。  
 夏風邪が主。ただしヘルパンギーナ、手足口病は殆ど見られない。  
 咽頭結膜熱が急増中で学童を初発に成人にまで家族内感染している。  
 ただし咽頭結膜熱ではアデノ陰性。  
 水痘、流行性耳下腺炎の流行が続いている。  
 感染性胃腸炎も少しづつ見られる。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ムンプスの流行が依然続いている。髄膜炎併発例もあるがいずれも軽症。  
 ヘルパンギーナの流行はかなり落ち着いてきた。8月下旬より遷延する激しい咳嗽、反復する発熱の呼吸器感染症が増加している。炎症反応軽度、各種迅速検査陰性、胸部レントゲンでも大きな変化はないが、大人も含め家族内感染している。

# 奈良県感染症情報

平成28年第35週(8月29日～9月4日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(8月)

## ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.71	(2.59)	↗	↗	↗	→
2	流行性耳下腺炎	1.59	(1.56)	→	↗	↘	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.12	(1.03)	→	↑	↘	↑
4	RSウイルス感染症	0.71	(0.24)	↑	↑↑	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.65	(0.59)	↑	↑	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆県内概況◆

咽頭結膜熱が増加しています。夏風邪の代表ですが、近年は冬にも小さなピークが見られます。  
 流行性耳下腺炎(おたふく風邪・ムンプス)は引き続き、例年より高いレベルで推移しています。  
 ワクチン接種が最も有効な予防法になります。任意接種で1歳以上から接種可能です。  
 RSウイルス感染症の報告が増えてきました。0～2歳児からの報告が8割以上を占めています。  
 乳児期は重症化することもあります。乳児が触れたり口に入れたりするおもちゃ等はできるだけこまめに消毒し、手洗い・うがいに努めましょう。

## ◆病原体(ウイルス)検出情報(8月)◆

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
コクサッキー	A4	2	1	1		感染性胃腸炎(2)、急性脳症(1)*、ヘルパンギーナ(1)
ライノ	A		1	1		不明熱(肝機能障害)(1)、急性脳症(1)**
ライノ	C		1			喘息様気管支炎(1)
ノロ	G2		3		1	感染性胃腸炎(4)
アデノ	40/41			1		感染性胃腸炎(1)
サボ			1			感染性胃腸炎(1)*
アデノ	5		1			感染性胃腸炎(1)*
ムンプス			1	1		無菌性髄膜炎(2)
ヒトパレコ	1		2			感染性胃腸炎(1)、発疹症(1)
ヒトパレコ	3	3				ウイルス性発疹症(1)、パレコウイルス疑い(1)、流行性筋痛症(1)

\*、\*\*重複感染

# 奈良県感染症情報

平成28年第36週(9月5日～9月11日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.50	(3.71)	→	↘	→	↓
2	流行性耳下腺炎	1.68	(1.59)	→	→	↗	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	1.03	(1.12)	→	→	→	↓
4	RSウイルス感染症	0.62	(0.71)	↗	↑↑	→	↓
5	伝染性紅斑	0.59	(0.26)	↗	↗	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆県内概況◆

流行性耳下腺炎(おたふく風邪)、伝染性紅斑(リンゴほっぺ病)が引き続き例年より高いレベルとなっています。流行性耳下腺炎は中和保健所東部(旧桜井保健所)管内、伝染性紅斑は奈良市保健所管内からの報告数が多くなっています。ともに不顕性感染(感染しているが臨床症状を示さないこと)した人からの感染があるため予防は難しいですが、手洗い・うがいを励行しましょう。  
 また、今週はインフルエンザの報告が中和保健所西部(旧葛城保健所)から1件ありました。例年、インフルエンザの本格的な流行は新年になってからですが、過去には9月に集団感染事例が発生したこともあります。  
 寒くなってくると様々な感染症が流行します。基本的な感染予防対策(手洗い・うがい・咳エチケット)を心がけましょう。

## ◆小児科外来情報◆

### 北部地区(矢追医院)

9月になり夏風邪はほとんど無くなりました。アデノウイルス感染症が一部の保育園の幼児で流行しています。伝染性紅斑と流行性耳下腺炎が相変わらず流行しています。季節の変化と台風の接近で喘息が出ています。

### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

夏風邪は減少傾向であるが、ヘルパンギーナ、手足口病が少し見られる。  
 前週は咽頭結膜熱の流行があった。流行性耳下腺炎はまだ流行中。水痘が少し。  
 感染性胃腸炎はそれほど多くない。  
 麻疹は見られないがワクチン接種希望の成人があり不足に備え抗体価検査または断っている状況。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ムンプスの流行はやや落ち着いてきた。  
 典型的な夏かぜは減少。咳の遷延例や胃腸炎が増加。RSウイルス感染で同胞3名の入院があった。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 37 週( 9 月 12 日～ 9 月 18 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 8 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.79	(2.50)	➡	↗	↘	↗↗
2	RS ウイルス感染症	1.94	(0.62)	↗↗	➡	↗↗	↗↗
3	流行性耳下腺炎	1.91	(1.68)	↗	↗	↗	➡
4	突発性発しん	0.59	(0.47)	➡	➡	➡	↘
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.47	(1.03)	↘	↘	↘	➡

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

### ◆ 県内概況 ◆

RS ウイルスが、流行しています。中和保健所西部(旧葛城保健所)管内では、定点あたりの報告数が 9.17 と非常に高くなっています。また、インフルエンザの報告も少しずつ増えてきています。ともに飛沫感染と接触感染で感染します。感染予防のポイント「**手洗い**」「**マスク着用**」「**咳(せき)エチケット**」を心がけましょう。

#### 飛沫感染

- (1) 感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫と一緒にウイルスが放出
- ↓
- (2) 別の人が、そのウイルスを口や鼻から吸い込み感染



※主な感染場所  
学校や職場、満員電車などの人が多く集まる場所

#### 接触感染

- (1) 感染者がくしゃみや咳を手で押さえる
- ↓
- (2) その手で周りの物に触れて、ウイルスが付く
- ↓
- (3) 別の人が、その物に触って、ウイルスが手に付着
- ↓
- (4) その手で口や鼻を触って粘膜から感染



※主な感染場所  
電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなど

(政府広報オンラインより転載)

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 38 週( 9 月 19 日～ 9 月 25 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.21	(2.79)	↘	➡	↘	↘
2	RS ウイルス感染症	1.53	(1.94)	↗	↗↗	↗	↗
3	流行性耳下腺炎	1.44	(1.91)	➡	↘	➡	↘
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.62	(0.47)	↘	↘	↘	↗
5	突発性発しん	0.59	(0.59)	➡	↗	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

### ◆ 県内概況 ◆

RS ウイルスが引き続き流行しており、今週は北部で増加しています。患者は、0～2歳児が9割近くを占めています。乳児期早期にRSウイルスに感染した場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。風邪症状のある人との密接な接触は避けましょう。流行性耳下腺炎は例年より高いレベルで推移しています。また、インフルエンザの報告も続いています。基本的な感染予防対策(手洗い・うがい・咳エチケット)を心がけましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

依然として流行性耳下腺炎と伝染性紅斑の流行が続いています。幼児でRSウイルス感染症がでています。今後増加する可能性が高そうです。インフルエンザが小学生で今週に入りでできました。迅速検査ではA型陽性です。一人は成人からの感染で、もう一人は同級生です。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

夏風邪は減少した。流行性耳下腺炎の流行が今春よりずっと流行。感染性胃腸炎は僅かずつ続いている。RSを疑う乳児があるが今のところ陽性例はまだない。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

夏カゼは減少するも手足口病が増加した。また、一旦終息したヘルパンギーナも散見されるようになった。ムンプスの流行は続いている。呼吸器感染症は増加、RSウイルス陽性例も数例入院したが重篤な呼吸器症状はみられていない。下痢中心の胃腸炎も増加、数例緑色水様便(1例粘血+)、細菌培養陰性、炎症反応の亢進軽微)あるも軽症に経過した。

# 奈良県感染症情報

平成28年第39週(9月26日～10月2日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(9月)

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.88	(2.21)	➔	↗	➔	↗
2	流行性耳下腺炎	1.85	(1.44)	➔	➔	↗	➔
3	RSウイルス感染症	1.29	(1.53)	↗	↗	↘	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	0.65	(0.62)	↘	↘	↘	↗
5	手足口病	0.59	(0.09)	↗	↗	➔	↘

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➔**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

### ◆県内概況◆

RSウイルス感染症の報告が増加しています。RSウイルス感染症は、冬から春先にかけて流行する感染症で、例年この時期から増加します。RSウイルスは感染力が強く、2歳までに全員が一度は感染すると言われています。一度感染しても免疫が十分につかず、繰り返し感染することがあります。感染経路は、第37週報でもお伝えしたように飛沫感染と接触感染です。手洗いや咳エチケットを心がけましょう。流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は、例年より高いレベルでの流行が続いています。今週は成人からの報告が2例ありました。大人が感染すると重い症状が出現することがあるため、抗体を持っているか確認しておくことも大切です。予防法は、ワクチン接種で1歳から接種することができます。

### ◆病原体(ウイルス)検出情報(9月)◆

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
コクサッキー	A4	1	5			急性脳症(4)、感染性胃腸炎(1)、急性扁桃炎(1)
コクサッキー	A10			1		ヘルパンギーナ(1)
コクサッキー	B1		1			感染性胃腸炎(1)
コクサッキー	B5		3			無菌性髄膜炎(3)
ヒトパレコ	3	2	1			無菌性髄膜炎・脳症(1)、高サイトカイン血症(2)
ヒトパレコ	4		1			感染性胃腸炎(1)
ヘルペス	6B	1				発疹症(1)※
サイトメガロ		1				発疹症(1)※
ヒトメタニューモ			1			気管支肺炎(1)
ムンプス			2			無菌性髄膜炎(2)
エコー	3	1				無菌性髄膜炎(1)
ライノ	A		1			感染性胃腸炎・発疹症(1)
ライノ	C		1			無菌性髄膜炎・脳症(1)
RS			2			喘息様気管支炎(1)、RSウイルス感染症(1)
ノロ	GII		1			感染性胃腸炎(1)

※重複感染

# 奈良県感染症情報

平成28年第40週(10月3日～10月9日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

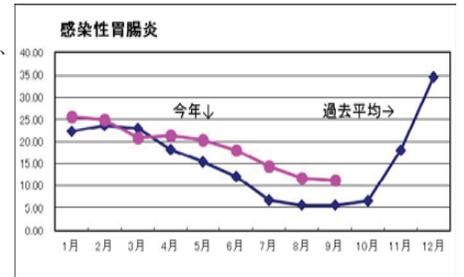
順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.29	(2.88)	➔	↘	➔	↘
2	RSウイルス感染症	2.21	(1.29)	↗	↗	↗	➔
3	流行性耳下腺炎	1.47	(1.85)	➔	➔	➔	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.32	(0.65)	↗	↘	↗	➔
5	手足口病	0.53	(0.59)	↗	↗	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➔**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

### ◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告は横ばいです。右のグラフは、過去の平均と今年の定点あたり報告数を比較したものです。例年10月から11月にかけて急増しています。手洗い、うがいを忘れず行いましょう。また、食べ物を十分に加熱調理し、生で食べることを控えるなどして予防して下さい。

RSウイルス感染症が増加しています。近府県では、大阪府や和歌山県も増加傾向です。マスクは毎日新しいものに交換し、清潔なものを着用して咳エチケットを心がけましょう。



### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数は9月に続いて多くない。季節の変わり目でアレルギー疾患が目立っている。保育園児でRSウイルスによる気管支炎がみられる以外目立ったものは無い。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加。咽頭症状が主の夏風邪にかわり、咳嗽が主の感冒症状例が増加してきた。RSが増加・流行中。3ヶ月前後の乳児RS陽性例とその同胞など。感染性胃腸炎はやや減少。流行性耳下腺炎の流行がずっと持続。他に水痘、伝染性紅斑などが僅か。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

呼吸器感染症が増加してきた。典型的なマイコプラズマ肺炎やRSウイルス感染症もみられる。下痢中心のウイルス性胃腸炎も多い。手足口病も秋になってから増えてきたが、症状は例年の軽症例が多い。夏カゼ由来と思われるウイルス性髄膜炎も1例入院した。ムンプスは減少している。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 41 週( 10 月 10 日～ 10 月 16 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 9 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.79	(2.29)	➔	➔	➔	⬇
2	RS ウイルス感染症	2.38	(2.21)	⬆	⬆	⬆	⬇
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.06	(1.32)	↗	⬆	➔	⬇
4	流行性耳下腺炎	1.00	(1.47)	⬇	➔	⬇	⬇
5	手足口病	0.74	(0.53)	⬆	⬆	⬆	⬆

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ⬆急増、⬆増加、↗やや増加、➔横ばい、⬇やや減少、⬇減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告が続いています。これまでのところ 10 歳～成人の報告が中心です。人の多いところではマスクをするなど予防に努めて下さい。当センターの検査では、A 型(香港型)を 1 例検出しています。

これから寒くなるにつれて流行する感染症が増加します。手洗い、うがい、咳エチケットを行って下さい。また感染性胃腸炎の場合は、糞便や嘔吐物の処理方法を誤ると集団感染を引き起こす原因となることがあります。処理・消毒方法についても確認しておきましょう。

### ◆ インフルエンザについて ◆

インフルエンザは例年 12 月～3 月頃に流行します。インフルエンザワクチンは接種した 2 週間後から効果があるとされています。ワクチン接種をする場合は、インフルエンザの流行を迎える前の 10 月末から 11 月末までに接種するようにしましょう。

#### ◆ インフルエンザの予防方法

- 流行前のワクチン接種
- 飛沫感染対策としての咳エチケット
- 外出後の手洗い等
- 適度な湿度の保持
- 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- 人混みや繁華街への外出を控える

#### ◆ 参考

- 厚生労働省 インフルエンザ  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html)
- 国立感染症研究所  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>



# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 42 週( 10 月 17 日～ 10 月 23 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.00	(2.79)	⬆	↗	⬆	➔
2	流行性耳下腺炎	2.12	(1.00)	↗	⬆	↗	⬇
3	RS ウイルス感染症	1.59	(2.38)	➔	➔	⬇	⬆
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.38	(1.06)	⬆	⬆	↗	⬇
5	手足口病	0.68	(0.74)	↗	⬆	➔	⬇

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ⬆急増、⬆増加、↗やや増加、➔横ばい、⬇やや減少、⬇減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告が増加しています。今シーズンの初発となる集団発生が県内の幼稚園で確認されました。感染性胃腸炎を引き起こす病原体は感染力が非常に強く、完全に予防することは困難ですが、感染を広げないよう手洗いなど出来ることを確実にいきましょう。手洗いは時計などをはずし、石けんで 30 秒以上もみ洗いし、流水できれいに洗い流しましょう。

流行性耳下腺炎の報告が増加しています。特に中和保健所東部(旧桜井保健所)管内では、定点当たりの報告数が注意報レベルの 3.0 を超えています。

インフルエンザの報告は 9 例あり、半数以上は成人からの報告です。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

喘息や花粉症が例年になく多いが、ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、小児ではほとんど無く、成人でみられる程度である。弛張熱と喘鳴を伴う咳、鼻汁がみられる RS ウイルスによる気管支炎が 3 才未満の保育園児でよくみられる。熱の後咳がしつこく続いたり、咳が続き発熱が遅れて出現し、マクロライド系抗生剤で軽快するマイコプラズマ肺炎と思われる例が 3 才以上成人までよくみられる。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加傾向。  
 夏風邪パターンは終焉、発熱、咳嗽例が増加してきた。  
 乳幼児では RS 陽性、年長児では臨床経過からマイコプラズマが多い。  
 感染性胃腸炎はノロ様で嘔吐が主であるが乳児では下痢が持続する例もある。  
 流行性耳下腺炎の流行は漸く鎮静。インフルエンザ陽性例はまだ見られない。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

呼吸器症状が遷延する例が増加。全身状態良好な年長児ではマイコプラズマ陽性例が、症状の強い乳児では RSV 陽性例がみられる。  
 ノロウイルスと思われる胃腸炎が散見され、また下痢だけが続く場合が多い。ムンプス、手足口病は減少してきた。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 43 週( 10 月 24 日～ 10 月 30 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.68	(4.00)	↑	↑	↑↑	↑↑
2	RSウイルス感染症	2.12	(1.59)	→	↓	↗	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.26	(1.38)	↗	↗	↗	↓
4	流行性耳下腺炎	0.97	(2.12)	↓	↓	↓	↓
5	手足口病	0.50	(0.68)	→	→	↗	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告が急増しています。患者は広範囲の年齢で見られますが、特に1歳～5歳で患者数が多くなっています。保育所、幼稚園での流行が懸念されます。集団感染を引き起こさないよう、糞便や嘔吐物の処理・消毒方法を確認しておきましょう。

RSウイルス感染症が流行しています。中和保健所西部(旧葛城保健所)で報告数が多くなっています。また、インフルエンザの報告が先週より増えています。インフルエンザの予防接種を受けていない方は、早めに接種されるとよいでしょう。

寒くなると様々な感染症が流行します。手洗い・うがいなど、基本的な感染予防に努めましょう。

## ノロウイルスによる感染性胃腸炎の予防と消毒法について

### ◎ 予防法

- ① トイレ後、おむつ交換後、食事前、調理前後には石けんを使い、しっかり手を洗いましょう。
- ② ノロウイルスは熱に弱く、**85～90℃で90秒間以上の加熱**で感染力が失われます。カキなどの二枚貝は中心部まで十分加熱してから食べましょう。
- ③ 包丁・まな板などの調理器具、タオルやふきんなどは消毒しましょう。  
※エタノール消毒は無効です。**次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)**や**熱湯(85℃以上で1分間以上)**で消毒しましょう。

### ◎ 汚物・嘔吐物の処理

- ・ 使い捨てのマスクやガウン、ビニール手袋を着用して、処理を行いましょう。
- ・ 塩素系漂白剤の消毒液をスプレーすると、ウイルスが空気中へ舞い上がるため、感染を広げてしまいます。消毒液を含ませたペーパータオルなどで被い、10分程度放置して消毒しましょう。
- ・ 糞便や嘔吐物で汚れた衣類等は、ペーパータオルなどで汚物を取り除き、熱湯消毒か塩素系漂白剤でつけ置き洗いしましょう。
- ・ 拭き取った汚物や嘔吐物、使用した手袋などはビニール袋に密閉して廃棄してください。
- ・ 処理後は、よく手を洗い、うがいをしましょう。



政府広報オンラインより転載

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 44 週( 10 月 31 日～ 11 月 6 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題「マイコプラズマ肺炎流行中」

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	9.15	(6.68)	↑	↑↑	↑	↑↑
2	RSウイルス感染症	2.06	(2.12)	→	→	→	↓
3	流行性耳下腺炎	2.00	(0.97)	↗	→	↑	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.29	(1.26)	→	→	→	↑↑
5	手足口病	1.18	(0.50)	↑	↗	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告が増加しています。特に中和保健所西部(旧葛城保健所)からの報告が多くなっています。ノロウイルスは非常に感染力が強いので、集団生活の場では特に手洗いを励行しましょう。流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は、例年より高いレベルで推移しています。また、マイコプラズマ肺炎も、例年より報告が多い状態が続いています。咳が長引くようであれば、早めに医療機関に受診するようにしましょう。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(矢追医院)

インフルエンザ予防接種で外来数は増加している。  
先々週頃より感染性胃腸炎が急増している。保育園児を中心に成人までノロウイルス胃腸炎が目立つが、発熱はあっても1日程度、嘔吐も同様で近年の軽症傾向は持続している。中学生以上ではキャンピロバクター等の細菌性胃腸炎もみられる。  
RSウイルスによる気管支炎も保育園児で流行が続いている。  
1日だけ発熱があり、口内炎を伴うが四肢の発疹は小さい手足口病も保育園児で再び増加している。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加中。インフルエンザはまだ見られず、外来は混雑と言う程ではない。咳嗽の多い種々の上・下気道炎が多く、RS陽性例、典型的レ線像のマイコプラズマ例もある。  
感染性胃腸炎が増加、ノロ陽性例もある、ロタ陽性例はまだない。流行性耳下腺炎が僅かずつまだ続いている。その他伝染性紅斑、A群溶連菌感染症が少し。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

呼吸器感染症は依然多い。RSウイルス感染やマイコプラズマ感染症が目立つ。熱のほとんどない例ではアレルギー性疾患との鑑別が困難。胃腸炎も増加、ノロウイルス陽性例もあり。ムンプスは減少、夏カゼ様疾患もほとんど見られなくなった。莓舌や扁桃所見なく咽頭発赤のみで溶連菌陽性例が多い。  
外来ではインフルエンザ陽性はでないが、南部市町では流行している。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 45 週( 11 月 7 日～ 11 月 13 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(10月)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	17.38	(9.15)	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↑
2	流行性耳下腺炎	1.97	(2.00)	↗	↗	↗	↑
3	RSウイルス感染症	1.47	(2.06)	↘	→	↘	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.38	(1.29)	→	↗	→	↑
5	手足口病	0.68	(1.18)	→	↘	↗	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が流行しています。中和保健所管内では、定点あたりの報告数が 24.31 となっており、警報レベルです。また、第 45 週は中和保健所管内の幼稚園でノロウイルスの集団感染がありました。保育所や幼稚園、福祉施設などの集団生活の場では特に感染予防が重要です。排便後やおむつ交換後、食事や調理前後には石けんを使用し、きちんと手洗いをしましょう。

インフルエンザの報告が増加してきました。インフルエンザウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染です。手洗い、うがい、咳エチケットを心がけましょう。

### ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(10月) ◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
RS	1			1	RSウイルス感染症(1)、記載無し(1)
アデノ	40/41	1			感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ	AH3	1			インフルエンザ(1)
エコー	3	2	1		無菌性髄膜炎(2)、咽頭炎(1)
エコー	6			1	咽頭炎(1)
エコー	9	1			喘息性気管支炎(1)*
コクサッキー	A16		1		手足口病(1)
コクサッキー	B1	1			感染性胃腸炎(1)
ノロ	G I	1			感染性胃腸炎(1)**
ノロ	G II	2			感染性胃腸炎(2)**
ヒトメタニューモ	1				ヒトメタニューモウイルス感染症(1)
ムンプス		1			流行性耳下腺炎(1)
ライノ	A	2			感染性胃腸炎(1)、発疹症(1)
ライノ	B	1			喘息性気管支炎(1)*

\*、\*\* 重複感染

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 46 週( 11 月 14 日～ 11 月 20 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

**感染性胃腸炎 警報発令中です!**

インフルエンザの流行が始まっています

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターより11月～今シーズンのノロウイルスの検出状況(速報)～

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	23.74	(17.38)	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑
2	RSウイルス感染症	1.79	(1.47)	→	→	↘	↑↑↑
3	インフルエンザ	1.76	(0.56)	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.47	(1.38)	→	→	→	↑↑↑
5	流行性耳下腺炎	1.44	(1.97)	→	→	↘	↘

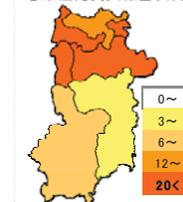
発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の定点当たり報告数が警報開始基準値の 20 を超え、警報発令となりました。感染性胃腸炎の警報は、平成 18 年(2006 年)の大流行以来 10 年ぶりです。特に郡山保健所(26.2)、中和保健所(32.3)からの報告が多くなっています。流行期間中は、症状の有無にかかわらず、手洗いを励行することが大切です。

また、インフルエンザの定点当たり報告数が 1.0 を超えましたので、インフルエンザの流行が始まったとみられます。予防には 1)ワクチン接種、2)飛沫感染対策としての咳エチケット、3)外出後の手洗い等、4)適度な湿度の保持、5)十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取、6)人混みや繁華街への外出を控える を心がけてください。

感染性胃腸炎報告状況



### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医療)

外来患者数は、インフルエンザ予防接種希望者とノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行で増加している。感染性胃腸炎はほぼ軽症で、1日足らずの嘔吐と腹痛があり、その後の下痢は少なく、熱もほとんど出ない例が大半を占めている。インフルエンザは迅速検査で A 型が毎週でている。症状は38度以上の熱と咳があり、例年通りと思われる。手足口病が増えている。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが中学生を主に増加中。すべて A 型。イナビル、リレンザ有効で重症例はみられていない。消化器症状を伴う例もなかった。感染性胃腸炎は嘔吐を伴いノロ様、短期の水様便、頭痛を伴う例も多い。RS(陽性)気管支炎が流行持続。流行性耳下腺炎が減少傾向ではあるが持続。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ増加。すべて A 型で、特に五條市 C 保育所では半数の幼児が罹患している。早期タミフル服用で軽快している。マイコプラズマ肺炎の流行も続いている。熱のない例もあるが全体に咳が遷延、全身状態は比較的良好。また、RSウイルス感染も多く、乳児では症状強く入院加療を要した。ノロウイルス胃腸炎も増加、溶連菌感染症も多くみられる。ムンプスはかなり減少してきている。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 47 週 ( 11 月 21 日 ~ 11 月 27 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 感染性胃腸炎 警報発令中です!

県全域における感染性胃腸炎の定点当たりの報告数は、警報基準値の「20」を下回りましたが、終息基準値である「12」を下回るまで、警報発令状態は続きます。

インフルエンザの流行が始まっています

### 今週の概要

- 10 月報 (月単位報告対象疾患 (性感染症・薬剤耐性菌感染症) の状況)

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位 5 疾患) ◆

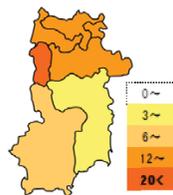
順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	17.68	(23.74)	↗	↑	↗	↗↗
2	インフルエンザ	1.76	(1.76)	↗↗	↗↗	↗↗	↑
3	流行性耳下腺炎	1.74	(1.44)	→	→	↘	↗↗
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.44	(1.47)	→	→	→	↗
5	RS ウイルス感染症	1.29	(1.79)	↘	→	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が流行しています。特に、中和保健所西部 (旧葛城保健所) からの報告が多くなっています。今の時期には、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が増加します。ノロウイルス感染後は、症状が回復してからも便中のウイルス排出が続きます。トイレ後やおむつ交換後、食事や調理前後には、必ず石けんで手洗いをし、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザの流行がはじまっています。肺炎や脳症などの合併症による重症化を防ぐためにも、予防接種が効果的です。まだ予防接種をされていない方は、早めに接種することをおすすめします。

感染性胃腸炎 報告状況



### インフルエンザの感染を防ぐためには?

— インフルエンザの感染経路は、飛沫感染と接触感染です —

#### ◆ 予防接種

#### ◆ 飛沫感染対策としての咳エチケット

使い捨ての不織布製マスクを使用し、鼻と口の両方を確実に覆いましょう。とっさの咳やくしゃみの際にマスクがない場合は、ティッシュなどで鼻と口を覆い、顔を他の人に向けてないようにしましょう。また鼻汁や痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗きましょう。

#### ◆ 正しい手洗い

流水・石けんで十分に手洗いしましょう。アルコール消毒も効果有。

#### ◆ 適度な湿度

空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下するので、適切な湿度 (50%~60%) に保ちましょう。

#### ◆ 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

#### ◆ 人混みや繁華街への外出を避ける

**★ 急に 38 度以上の発熱が出て、咳やのどの痛み、全身の倦怠感**を伴うなどインフルエンザが疑われる症状が出たときは、早めに医療機関を受診しましょう!

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 48 週 ( 11 月 28 日 ~ 12 月 4 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 感染性胃腸炎 警報発令中です!

内吉野保健所以外の全ての保健所で、警報開始基準値を超え、流行しています。流行期間中は、症状の有無にかかわらず、手洗いを励行することが大切です。

インフルエンザの流行が始まっています

### 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位 5 疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	23.09	(17.68)	↑	↑	↗	↗↗
2	RS ウイルス感染症	1.94	(1.29)	→	↗	→	↗
3	流行性耳下腺炎	1.88	(1.74)	→	↑	→	→
4	インフルエンザ	1.48	(1.76)	↑	↗	↑	↓
5	A 群溶連菌咽頭炎	1.29	(1.44)	→	↘	→	→

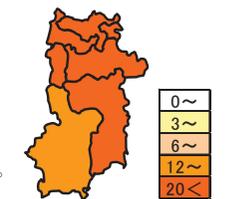
発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が警報発令中です。保育所や幼稚園、福祉施設などの集団生活の場では特に感染予防が重要です。排便やおむつ交換の後はしっかりと手を洗い、タオルの共用は避けましょう。また、食事や調理の前にはしっかりと手を洗いましょう。ノロウイルスには、次亜塩素酸による消毒が有効です。

インフルエンザの患者報告数は横ばいで推移しています。飛沫感染対策として、使い捨てのマスクを使用し、鼻と口をしっかりと覆いましょう。くしゃみや咳を手のひらで受け止めたときはすぐに手を洗い、鼻をかんだ後のティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。

感染性胃腸炎 報告状況



### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区 (矢追医院)

インフルエンザ予防接種希望者が多い。インフルエンザは毎週 2 人程度みられるが、増加傾向は今のところ無い状況です。嘔吐 1 日程度と腹痛、下痢のノロウイルスによると思われる感染性胃腸炎が流行し、増減を繰り返している。流行性耳下腺炎が増えている。RS ウイルス感染症は最近みられなくなった。

#### 中部地区 (岡本内科こどもクリニック)

外来数は予防接種と種々の感染症で増加。インフルエンザは中学生を中心に散発でまだそれほど多くはない。すべて A 型。症状は軽症傾向。

嘔吐のノロ様感染性胃腸炎が多く家族中に感染の例もある。嘔吐と水様下痢とともに、熱、頭痛、時に関節痛を伴う例もありインフルエンザと紛らわしい例もある。流行性耳下腺炎の流行が持続。水痘も僅かにある。

#### 南部地区 (南奈良総合医療センター小児科)

感染性胃腸炎が急増。外来の半数が嘔吐で受診。幼児を中心に全年齢層に広がる。同居成人も同症状みられる。ほとんどは輸液処置で翌日には食欲みられだしている。他の感染症は減少した。

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 49 週 ( 12 月 5 日 ~ 12 月 11 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

**感染性胃腸炎 警報発令中です!**

インフルエンザの流行が  
始まっています

### 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(11月)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

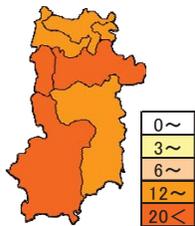
順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	19.35	(23.09)	➔	➔	➔	⬆
2	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(1.29)	⬆	⬆	⬆	⬆
3	インフルエンザ	1.78	(1.48)	⬆	⬆	⬆	⬆
4	RSウイルス感染症	1.71	(1.94)	➔	⬆	➔	⬆
4	流行性耳下腺炎	1.71	(1.88)	➔	➔	➔	⬆

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆**急増、**⬆**増加、**⬆**やや増加、**➔**横ばい、**⬆**やや減少、**⬆**減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が警報発令中です。流行中は、症状の有無にかかわらず、手洗いを励行することが大切です。また、食品の加熱処理はウイルスの活性を失わせる(失活化といいます。)有効な手段です。ノロウイルスの汚染のおそれのある二枚貝などの食品の場合は、中心部が85℃~90℃で90秒以上の加熱が望まれます。十分に加熱しましょう。  
 インフルエンザの患者報告数は横ばいで推移しています。急に38度以上の発熱、咳やのどの痛み、全身の倦怠感を伴うなど、インフルエンザが疑われる症状が出た際には、早めに医療機関を受診しましょう。手洗い・うがいなど、基本的な感染症予防に努めましょう。

感染性胃腸炎 報告状況



### ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(11月)

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
RS	1	1			クループ(1)、RSウイルス感染症(1)
アデノ	1	1			感染性胃腸炎(1)*
エコー	25	1	1		感染性胃腸炎(2)*
エコー	3	1	2		発疹症・気管支肺炎(1)、 感染性胃腸炎(1)、RSウイルス感染症(1)
エンテロ	71		1		急性扁桃炎・手足口病(1)
コクサッキー	A2			1	急性散在性脳脊髄炎疑い(1)
コクサッキー	A16	1			手足口病(1)**
ノロ	G I	1			感染性胃腸炎(1)
ノロ	G II	2	22		感染性胃腸炎(24)
パラインフル	1	2			急性気管支炎(1)、気管支肺炎(1)
ライノ	A	2			発疹症(1)、手足口病(1)**

\*、\*\* 重複感染

# 奈良県感染症情報

平成 28 年 第 50 週 ( 12 月 12 日 ~ 12 月 18 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

**感染性胃腸炎 警報発令中です!**

インフルエンザの流行が  
始まっています

### 今週の概要

- 小児科外来情報
- 11月報(月単位報告疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	18.29	(19.35)	➔	➔	⬆	⬆
2	インフルエンザ	4.56	(1.78)	⬆	⬆	⬆	⬆
3	A群溶連菌咽頭炎	2.74	(2.09)	⬆	⬆	⬆	⬆
4	流行性耳下腺炎	1.94	(1.71)	➔	➔	⬆	⬆
5	RSウイルス感染症	1.38	(1.71)	➔	⬆	⬆	⬆

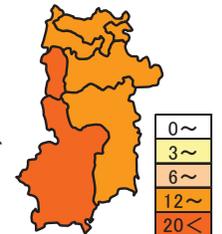
発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆**急増、**⬆**増加、**⬆**やや増加、**➔**横ばい、**⬆**やや減少、**⬆**減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎警報発令中です。ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、吐物やふん便は乾燥しないうちに床等に残らないよう処理し、処理した後はウイルスが屋外に出て行くよう空気の流れに注意しながら十分に換気を行うことが感染防止に重要です。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数が、県内全域で大きく増加しました。今後さらに広がりを見せる恐れがあるので、手洗い・うがいを励行し、予防に努めましょう。また、人が多く集まる場では特に、咳エチケットを心がけて下さい。

A群レンサ球菌咽頭炎が例年より高いレベルで推移しており、特に中和保健所西部地域(旧葛城保健所管内)で多い状況です。予防には、手洗い・うがいなどが大切です。

感染性胃腸炎 報告状況



### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

約1か月前よりインフルエンザは週2-3人みられたが、徐々に多くなってきている。学級閉鎖も先週から出てきているが一挙に流行となるかはまだ疑問である。ほとんどがA型であるが、既にA型とB型の両方に1か月以内に罹った子もいる。ノロウイルスと思われる感染性胃腸炎は、感染力は例年通り強いが、症状は軽いと思われる。流行は縮小気味である。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザの増加とともに外来数は増加。現在すべてA型。軽症の印象。まだ急増と言う程の拡大ではない。流行性耳下腺炎の流行が持続。既定の発症後5日を経過しても反対側の腫脹が始まる例もあり登校規定に疑問。ノロ様の感染性胃腸炎も流行持続。ロタは見られない。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ノロウイルス性胃腸炎の流行が続く。保育所や家族内感染でさらに広がっている。A型のインフルエンザが本格的に流行しだした。タミフル有効例が多いが、混合感染による病態の修飾もある。溶連菌やRSウイルス感染もあいかわらず流行が続いている。

# 奈良県感染症情報

平成28年第51週(12月19日～12月25日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## インフルエンザの流行が始まっています

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	10.94	(18.29)	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓
2	インフルエンザ	7.11	(4.56)	↑↑	↑↑	↑↑	↑
3	流行性耳下腺炎	1.62	(1.94)	→	→	→	→
4	RSウイルス感染症	1.59	(1.38)	→	→	→	↑
5	A群溶連菌咽頭炎	1.32	(2.74)	↓	↓	↓	↗

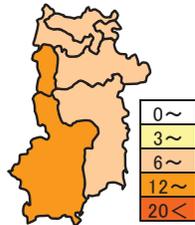
発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況◆

県内の定点当たり患者報告数が警報終息基準値「12」を下回りましたので、感染性胃腸炎の警報が解除になりました。ノロウイルスに感染すると、下痢等の症状がなくなっても、通常では1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあります。症状が改善した後も、しばらくの間は手洗いを徹底するとともに、食品に直接触れる際には「使い捨ての手袋」を着用するなどの注意が必要です。

インフルエンザの患者数が増加しています。鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。年末、年始に人が多く集まる場所に出かける際には、マスクを着用し、咳エチケットを心がけて下さい。

感染性胃腸炎 報告状況



### ◆今シーズンのノロウイルスに関して◆

今シーズンの感染症発生動向調査における感染性胃腸炎患者の報告数は、直近5年間で最も流行した平成24年のピーク時に迫る水準となっています。一部の自治体で検出された多くのノロウイルスは、過去に流行したGII.2の変異株であることが判明しています。

現在、流行が確認されているノロウイルスGII.2変異株については、現在市中で使用されているノロウイルス迅速診断検査キット(イムノクロマト法を用いたキット)では、他の株より更に感度が低い可能性があることが、国立感染症研究所より指摘されています。ノロウイルスによる感染の疑いがある場合は、検査結果に関わらず感染防止対策等に努めていただくことをご留意願います。

平成28年12月21日付け事務連絡 感染性胃腸炎の流行状況を踏まえたノロウイルスの一層の感染予防対策の啓発について  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/dl/161222-01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/dl/161222-01.pdf)  
今シーズンの奈良県におけるノロウイルス検出状況(速報)(奈良県HP 保健研究センターだより11月)  
<http://www.pref.nara.jp/secure/158849/20161125.pdf>  
ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省HP)  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)

次回の週報(第52週)は、平成29年1月10日(火)に発行いたします。

# 奈良県感染症情報

平成28年第52週(12月26日～1月1日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## インフルエンザの流行が始まっています

### 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.09	(10.94)	↓	↓	↓	↓
2	インフルエンザ	4.00	(7.11)	↗	↗	→	↑
3	RSウイルス感染症	1.15	(1.59)	↓	↓	→	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.09	(1.32)	↓	↓	↓	↓
5	流行性耳下腺炎	1.03	(1.62)	↓	↓	↓	↓

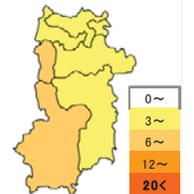
発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況◆

第52週は年末年始でお休みの医療機関もあり、患者報告数は減少しています。インフルエンザは流行が始まっており、今後増加するとみられます。5～14歳の報告が多い状況です。これまでの検査では、AH3(香港型)の検出が多く、次にAH1pdm09(2009年流行型)を検出しています。A型は流行が始まると急激に患者数が増加します。「咳エチケット」を心がけ、外出後の手洗い等を励行するなど、感染予防対策が必要です。

- ✓ 咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- ✓ 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。
- ✓ 咳をしている人にマスクの着用をお願いします。

感染性胃腸炎報告状況



### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(矢追医院)

一旦増加してきていたインフルエンザは、学校や幼稚園の正月休みで、減少し中学生以上の成人にみられるだけとなっています。感染性胃腸炎も同様の傾向です。小学生で流行性耳下腺炎と保育園で夏風邪の手足口病がよくみられます。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは年末から僅かずつ増加程度のまま大きな流行に至らず。流行性耳下腺炎が持続。感染性胃腸炎は嘔吐のノロ様が続く。マイコプラズマ様咳嗽の例がやや多い。新年あけてA群溶連菌感染症があった。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

感染性胃腸炎の流行は続いている。保育所、学校は休みに入ったが家庭での感染が広がっている。インフルエンザは一旦流行が落ち着いた様子あり。RSウイルス感染症は依然多く、入院例も多い。また、炎症反応亢進例は抗生剤を併用しないと症状の遷延がみられる。